

かめおか
まるごとスタジアム
構 想



スポーツで人生を豊かに！それが亀岡スタイル

私たちのまち亀岡は、保津川をはじめ、緑あふれる山々など、豊かな自然に恵まれています。また、府立京都スタジアムや亀岡運動公園など、「する・みる・ささえる」といったスポーツに触れ合える絶好のフィールドが整っています。

一方、社会経済の状況を見ますと、少子・高齢化の進行や人口流出などに伴い、地域社会の担い手が不足し、経済活動の維持拡大が困難な状況になりつつあるとともに、長期化している新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、地域経済にも大きな影響を及ぼし、人々の様々な活動が制限されてきたところであります。

このような状況の中、SDGs未来都市として、輝かしい未来の実現に向け、人々が健康でいきいきと幸せを感じられるまちを創造し、誰ひとり取り残さない持続可能な取組を進めていくことが今後ますます大切になってくるものと考えております。

このたび、本市の強みである豊かな自然を最大限に活かし、『スポーツ』という求心力・発信力のあるキーワードをまちづくりのひとつの柱として、単にスポーツ活動の活性化のみならず、心身の健康づくりに寄与し、人々の交流と賑わいを創出し、幸せあふれるわがまち亀岡の創造を目指すため、『かめおかまるごとスタジアム構想』を策定しました。

本構想は、亀岡市全域を『まるごと』『スタジアム』と称し、『スポーツ』の定義においても、誰もが気軽に楽しめる運動からアウトドアレジャー、そして本格的な競技スポーツなど、生きがいくりにつながる活動をはじめ、「みる」だけでなく、より積極的に「応援する」「支える」といった活動など、スポーツを広く捉え、ユニークな亀岡スタイルで、魅力あるまちづくりを進める方向性を示したところであります。

今後、この構想に基づき、スポーツフィールド亀岡を活用し、積極果敢にチャレンジすることによって、スポーツを通じて人生を豊かにし、笑顔があふれるまちの創造に向け、市民の皆さんをはじめ、関係機関の皆さんとともに取組を進めてまいりたいと存じます。

最後になりますが、この構想の策定にあたり、策定委員会委員として、スポーツや健康医療の分野を研究し教鞭をとられている先生方や、スポーツビジネスやスポーツを通じたまちづくりの分野を専門に実践しておられる方々に、幅広い御意見をいただきましたことに感謝を申し上げますとともに、今後の構想推進にあたりまして、引続き御支援、御協力をお願い申し上げます。

令和4年3月

亀岡市長 桂川孝裕



目 次

はじめに	1
1 かめおかまるごとスタジアム構想の策定にあたり	1
2 構想を策定する目的	2
3 構想の期間	3
4 構想の位置づけ	3
I 亀岡市のスポーツ活動を取りまく状況	4
1 亀岡市の概要	4
(1) 市域	4
(2) 人口・世帯	5
(3) 交通体系	6
(4) 産業構造	7
(5) 自然環境	14
(6) 推進施策	15
2 スポーツの動向と今後の展望	16
(1) スポーツを取りまく社会動向	16
(2) 国・京都府の動向	17
(3) スポーツニーズ等の動向	20
(4) スポーツツーリズム・アウトドアレジャーの展望	22
3 亀岡市におけるスポーツ資源等の現状	26
(1) 市内スポーツ機能の現状	27
(2) 府立京都スタジアム（サンガスタジアム by KYOCERA）の状況	30
(3) 近年のスポーツニーズへの対応	33
(4) 健康増進関連計画の現状	34
(5) 近隣コンペティター（競合・連携相手）の状況	35
4 亀岡市の主なスポーツ事業やこれまでの表彰者	36
(1) 亀岡市の主なスポーツ・競技大会	36
(2) 亀岡市の主なスポーツ分野表彰者	39

II 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

- 1 計画の視点・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
 - (1) 既存資源の効果的な活用による地域活性化・・・・・・・・ 42
 - (2) アウトドアスポーツマルチ都市としての情報発信・・・・・・・・ 42
 - (3) 構想推進の中核的主体の発見・育成・・・・・・・・ 42
 - (4) 「ささえる」「応援する」人財の育成・・・・・・・・ 43
 - (5) アスリートの育成と市民競技力の向上・・・・・・・・ 43
 - (6) 周辺自治体・施設との連携・・・・・・・・ 43
 - (7) 発展的な取組の検討・・・・・・・・ 43
 - (8) 社会動向等への対応・・・・・・・・ 44
- 2 将来目標・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
 - (1) 将来像・・・・・・・・ 45
 - (2) 具体的な目標・・・・・・・・ 45

III 施策展開の方向・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

- 1 ビジョン実現に向けた提案施策・・・・・・・・ 47
 - (1) まるごとスポーツネットワークの推進・・・・・・・・ 47
 - (2) 府立京都スタジアムの活用・・・・・・・・ 47
 - (3) まるごとスポーツ情報の発信・・・・・・・・ 48
 - (4) 地域資源を活かしたスポーツ文化の定着・・・・・・・・ 48
 - (5) ニーズに応じたスポーツ施設・基盤の整備・・・・・・・・ 49

IV まるごとスタジアム構想の推進に向けて・・・・・・・・ 50

- 1 関係機関の連携強化・・・・・・・・ 50
- 2 構想推進体制の確立・・・・・・・・ 50
- 3 施策の具体化に向けた取組の推進・・・・・・・・ 51

参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・ 52

- 1 かめおかまるごとスタジアム構想 策定委員会 委員名簿・・・・・・・・ 52
- 2 かめおかまるごとスタジアム構想 策定委員会 会議経過・・・・・・・・ 52

1 かめおかまるごとスタジアム構想の策定にあたり

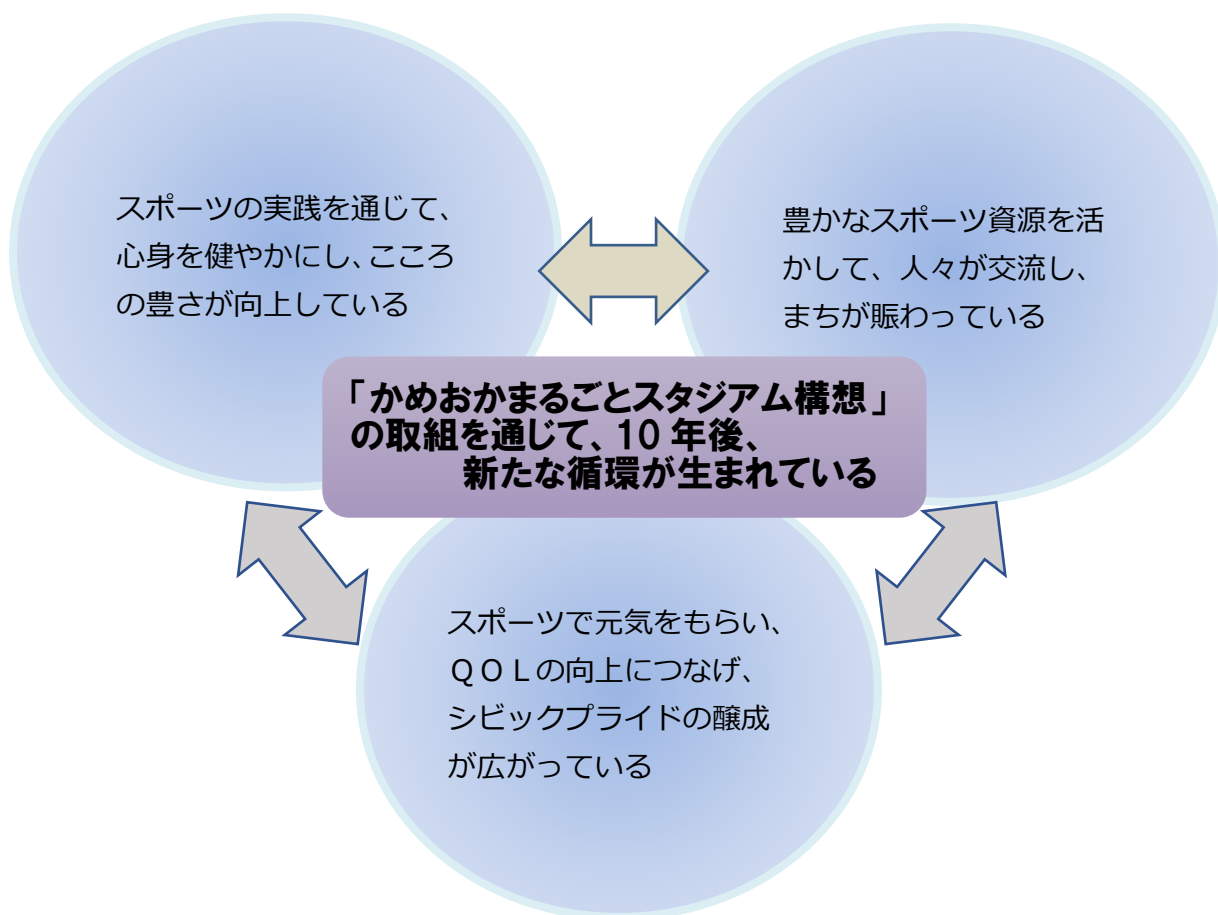
- ・本市は、第5次亀岡市総合計画（2021年度-2030年度）において、「人と時代に選ばれるリーディングシティ亀岡」を目指す都市像に掲げ、良好な暮らしの環境、安全・安心の確保、定住・交流の促進など、まちづくりのあらゆる分野において、次の時代をリードし、人に選ばれるまちを目指している。
- ・また、「世界に誇れる環境先進都市」の実現に向けた取組をはじめ、「SDGs 未来都市」として、世界中の人々がより幸せに暮らせる社会を創るために、SDGs（持続可能な開発目標）の理念を市民と共有し、特色ある豊かな資源を生かし、持続可能な環境・経済・社会の創造に取り組むこととしている。
- ・これらを実現する上で、保津川をはじめとする豊かな自然は本市において大切な資源のひとつであり、市民が愛着や誇りを持つ共有の財産である。この自然環境と大都市との近接性を背景として、本市には、スポーツやアウトドアレジャーを体験する拠点やサービス事業者が数多く集積している。
- ・さらに、2020年に府立京都スタジアム（サンガスタジアム by KYOCERA）が完成、2022年にはサンガスタジアムをホームとする京都サンガF.C.のJ1昇格がスポーツ熱をさらに高め、スポーツの持つ求心力によるまちづくりをはじめ、特にアウトドアを中心としたスポーツ活動の拠点としての飛躍を目指している。
- ・「する みる ささえる」スポーツのまちづくりは、心身の健康やまちの賑わいを通じて市民生活を充実したものとし、来訪者にも幸せな時間・体験を提供する。同時に、本市の地域資源を活かしたスポーツやアウトドアレジャーは、市民や来訪者が“亀岡を体験する”ための最も重要なツールとして、亀岡に対する愛着を育むことにつながる。また、野外を中心とした活動は、コロナ禍などにおける健康の維持増進にも寄与する。
- ・こうした本市におけるスポーツの意義や役割を踏まえ、スポーツ体験を通じて幸せがふれるまち、スポーツによってふるさとへの誇りや愛着を育むまちの創造に向け、本構想を策定する。

<本構想におけるスポーツとは>

- ・本構想が対象とするスポーツは、「する、みる、ささえる」など、ウォーキングや散歩といった誰もが気軽に楽しめる運動からアウトドアレジャー、そして本格的な競技スポーツまで、人々の生きがいづくりにつながるあらゆる活動を対象とする。
- ・加えて、「みる」だけでなく、より積極的に自分が好きな競技やチームを「応援する」「支える」活動とし、当構想においては、スポーツやアウトドアレジャーの魅力を高め、温泉、宿泊、食体験なども含め、体験型観光への誘いの要素も含んだものとする。

2 構想を策定する目的

- ・本構想は、単にスポーツ活動の活性化や競技力向上だけを考えるのではなく、スポーツ活動を通じて、市民の健康や幸せ、来訪者の楽しみや休息、そして活力あるまちづくりを実現していこうとする総合的なビジョンを示すものである。
- ・この構想に基づく取組を進めることで、亀岡市を次のようなまちにしていこうことを展望している。
 - ①「する、みる、ささえる」スポーツの実践を通じて、市民の健康づくり、体力増強が進み、楽しいエンターテインメントとして感じ、心身を健やかにし、こころの豊さの向上が図られている。
 - ②スポーツをする人、スポーツを「みる、ささえる、応援する」ために来訪する人によってまちが賑わっている。また、豊かな自然も含めた、地域のスポーツ関連資源を活かした、市民の交流と、来訪者が周遊及び亀岡を体験し、亀岡に滞在・滞留する機会が広がっている。
 - ③亀岡では、「スポーツを通じて元気がもらえる、リフレッシュできる」を実感でき、QOL（生活の質）の向上につながり、ふるさと亀岡に対する市民のシビックプライドを育むことで、若者を中心とする転出の抑制、新たな移住定住者の拡大につながっている。



3 構想の期間

- ・本構想は 2021（令和 3）年度を初年度に、2030（令和 12）年度を目標とする 10 か年を期間とする。
- ・なお、社会動向の変化や計画の進捗状況を踏まえ、必要に応じて柔軟な見直しを図ることとする。

4 構想の位置づけ

- ・本構想は、第 5 次亀岡市総合計画に基づき、特にスポーツを活かして、その将来像に掲げる「人と時代に選ばれるリーディングシティ」の実現に貢献していく役割を担うものである。

【第 5 次亀岡市総合計画（2021 年度-2030 年度）における本構想の位置づけ】

本構想は、基本計画「第 4 章 豊かな学びと文化を育むまちづくり」内「第 3 節 スポーツ」の項目において、次のように位置づけられている。

「亀岡まるごとスタジアム構想」の策定と推進

亀岡の豊かな自然の中で、多様なスポーツやアクティビティ（山や川などの自然を生かしたアウトドア体験型レクリエーション）を体験することのできる環境を整備するため、「亀岡まるごとスタジアム構想」を策定します。構想の推進を通じて、市民の健康増進、体力増強など、生活の質の向上を図るとともに、スポーツやアクティビティを地域資源として活用し、様々な産業と連携させることにより、体験型観光の振興、地域経済の活性化や移住定住者の拡大につなげます。

- ・また、SDGs を採択した国際連合においては、スポーツを「SDGs の 17 項目それぞれの達成に向けた課題に取り組む潜在的な能力を備えた重要かつ強力なツール」と位置づけ、その役割を果たすことを期待している。本構想においてもこの認識を共有し、取組を通じて SDGs を前進させることを目指す。

【スポーツと持続可能な開発（SDGs）】

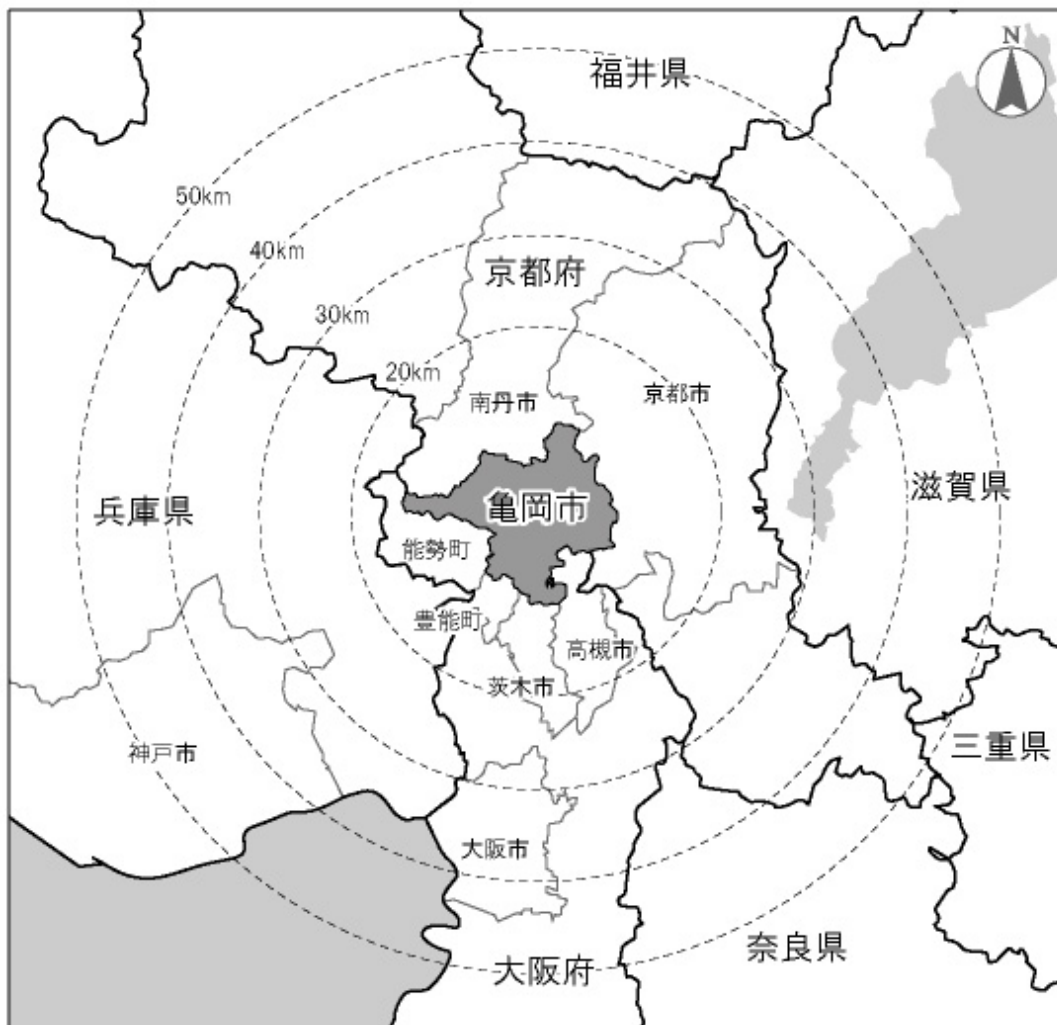
スポーツもまた、持続可能な開発における重要な鍵となるものである。我々は、スポーツが寛容性と尊厳を促進することによる、開発および平和への寄与、また、健康、教育、社会包摂的目標への貢献と同様、女性や若者、個人やコミュニティの能力強化に寄与することを認識する。

出典）持続可能な開発のための 2030 アジェンダ宣言（国際連合広報センターより）

1 亀岡市の概要

(1) 市域

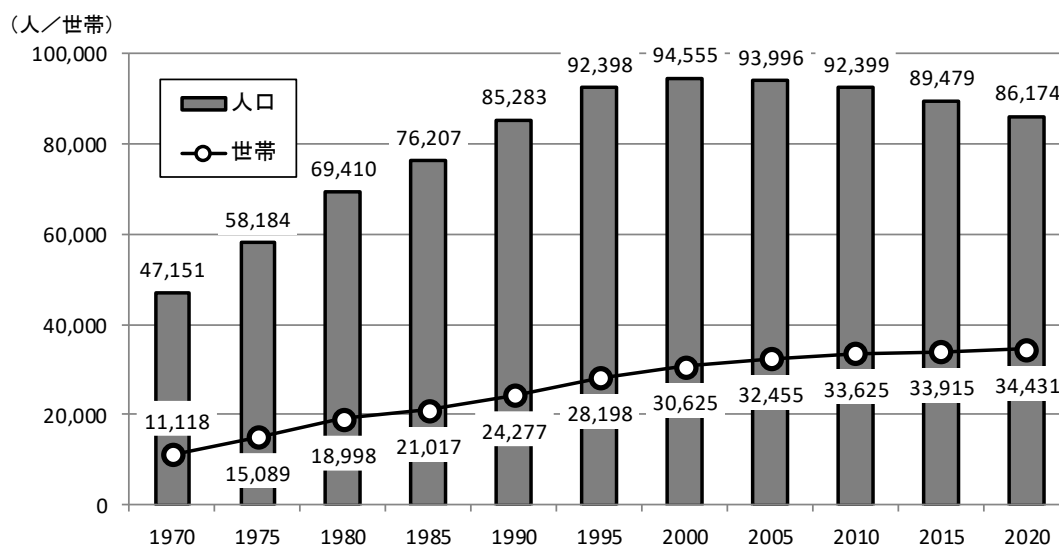
- ・ 亀岡市は京都府のほぼ中央部に位置し、北を南丹市、東を京都市、南と西は大阪府と接している。500～800m級の山々及び周辺を山地に囲まれた亀岡盆地を中心に構成され、市域の約7割が山林となっている。亀岡盆地のほぼ中央を桂川（大堰川・保津川）が流れている。市域は224.80 km²である。京都、大阪、神戸の京阪神三大都市圏の中心部から50km圏内に位置し、大都市圏の近郊都市としての利便性と、自然豊かな心地よさを併せ持っている。
- ・ 奈良時代から平安時代には、丹波国分寺・国分尼寺が置かれるなど旧丹波国の中心都市としての役割を果たし、戦国時代末期に明智光秀が丹波亀山城と城下町を築いたことが近代都市基盤の礎となっている。



(2) 人口・世帯

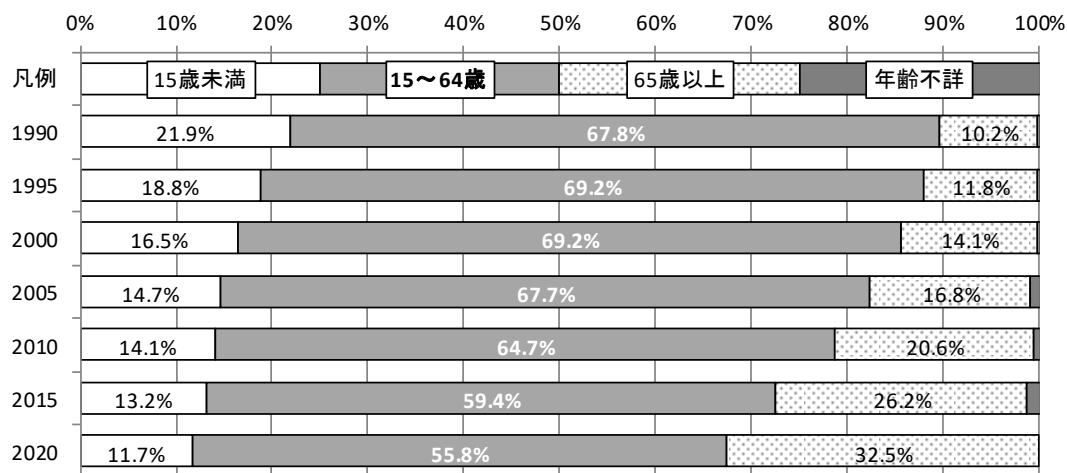
- ・国勢調査でみると、市制を施行した昭和 30（1955）年の本市人口は 42,537 人、その後は増加を継続、平成 12（2000）年に 94,555 人とピークを迎え、近年は緩やかに減少傾向が続いている。一方、世帯数は近年も増加傾向を続けており、核家族化や単独世帯の増加など、世帯人員の縮小が進んでいると考えられる。
- ・年齢 3 区分別の人口の推移をみると、年少人口（15 歳未満）及び生産年齢人口（15～64 歳）が減少傾向にある一方、高齢者人口（65 歳以上）は増加傾向を示し、本市においても少子高齢化が進んでいる。

図 亀岡市の人口と世帯の推移



出典) 各年国勢調査

図 年齢 3 区分別人口の推移



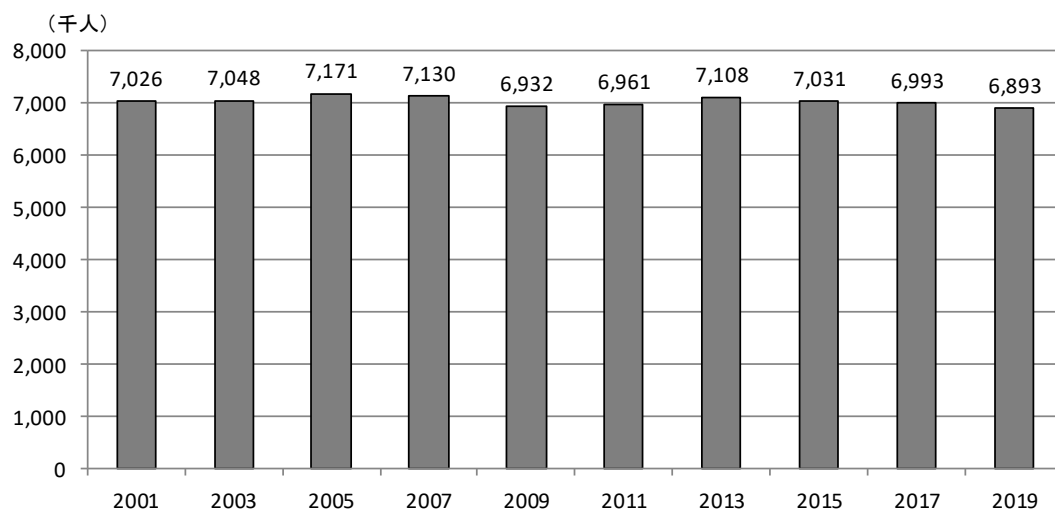
出典) 各年国勢調査

(3) 交通体系

① 公共交通

- ・市街地と保津川（桂川）に沿って、市域の北から東へとＪＲ山陰本線が貫き、北は京都府北部の丹後地域、東は京都市中心部方面と結ばれている。平成 22（2010）年 3 月に京都駅～園部駅間の複線化が完了し、京都・大阪中心部との利便性が向上している。京阪神都市近郊区間にあって旅客数・列車本数ともに多く設定されているが、朝ラッシュ時は飽和状態となっている。
- ・ＪＲ 4 駅の乗客数は近年、ほぼ 700 万人前後で推移している。令和元（2019）年では、このうち定期利用者 65.7%、定期外 34.3%となっている。
- ・京阪京都交通（株）が運行する民営バスとともに、一部地域の民間バス路線廃止に伴って市民の移動手段を確保するため、市が運営するコミュニティバス（亀岡市コミュニティバス、亀岡市ふるさとバス）が運行している。亀岡市コミュニティバスは主に鉄道駅（亀岡駅、馬堀駅）と市中心部の公共施設を結び、亀岡市ふるさとバスは川東、別院、畑野、千代川、並河など郊外地域の移動手段となっている。

図 亀岡市内鉄道駅乗客数



※馬堀駅、亀岡駅、並河駅、千代川駅の乗客数（定期＋定期外）合計

出典）亀岡市統計書

② 道路

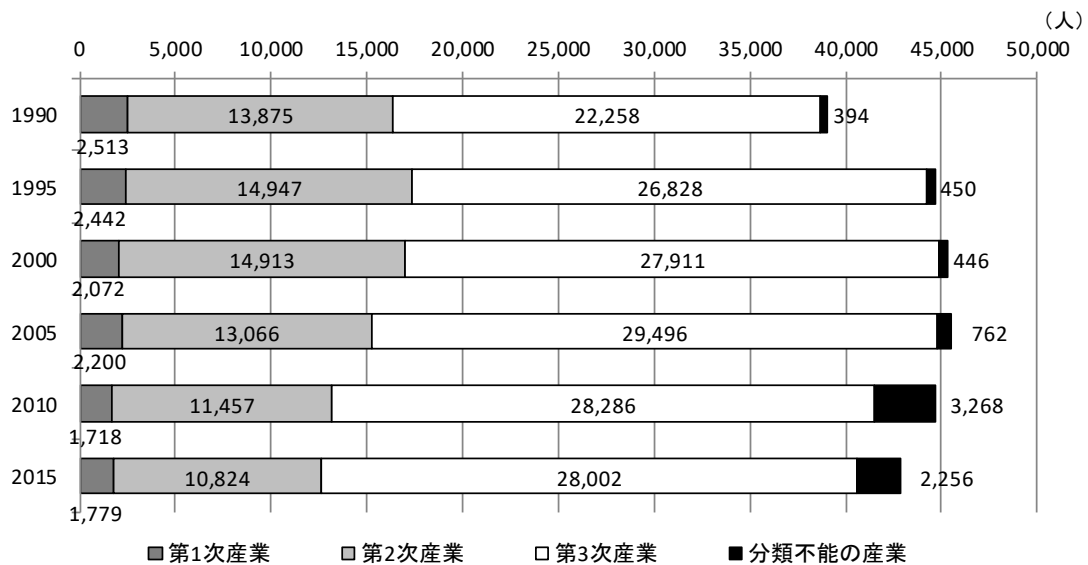
- ・道路は、古くから国道 9 号が広域的な基幹幹線としての役割を担ってきたが、慢性的な混雑状態にあった。昭和 63 年（1988）年 2 月に京都縦貫自動車道（千代川 I.C.～沓掛 I.C.）、平成 25（2013）年 4 月に京都第二外環状道路（沓掛 I.C.～大山崎 I.C.）が開通、平成 27（2015）年 7 月には京都縦貫自動車道（宮津市～大山崎町に至る延長 93.2km の高規格幹線道路）全線が完成し、慢性的な渋滞の解消及び観光需要をはじめとする地域経済活性化が展望されている。

(4) 産業構造

① 産業別就業者数等

- ・産業について人材面から把握するため、国勢調査における亀岡市の産業別就業者数をみると、生産年齢人口の減少もあり、近年、就業者数全体が減少している。
- ・平成 27（2015）年の産業別では、第 3 次産業の比率が 62.4%と最も高いが、就業者数はわずかに減少に転じている。また、第 2 次産業は就業者数、比率とも減少・低下傾向が継続している。

図 亀岡市の産業別就業者数（国勢調査）

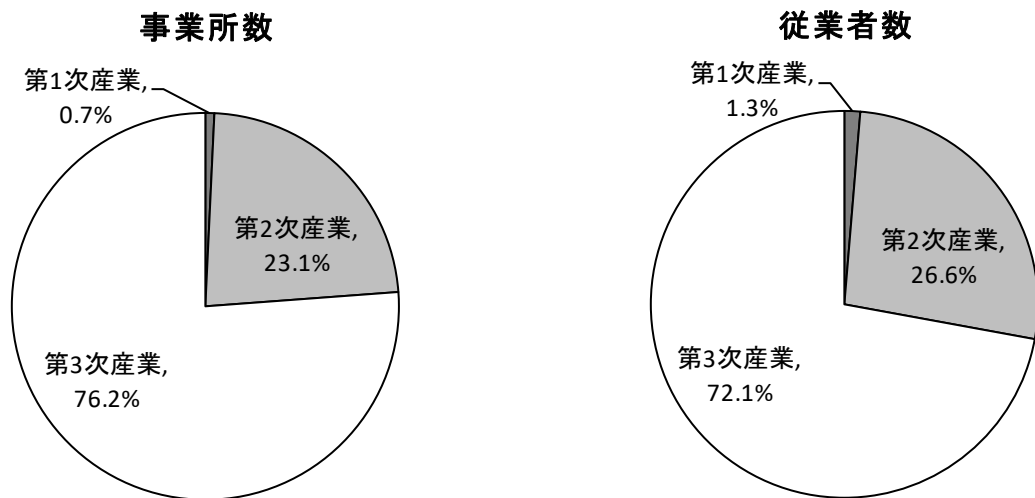


出典) 各年国勢調査

② 産業別事業所数と従業者数（経済センサス）

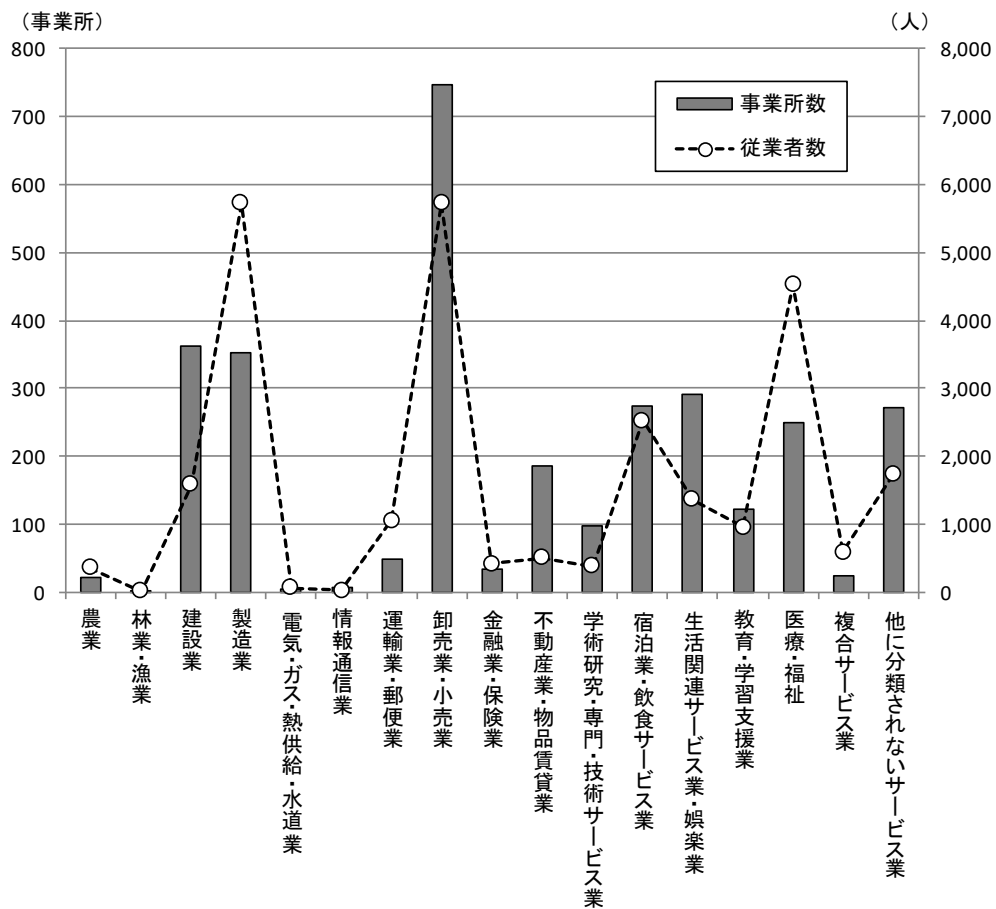
- ・次に市内産業の構造を把握するため、経済センサスにおける亀岡市の産業別事業所数及び従業者数をみると、事業所数では 76.2%、従業者数でも 72.1%を第 3 次産業が占めている。
- ・第 2 次産業は、事業所数の 23.1%に対し、従業者数では 26.6%となっており、事業所当たりの雇用規模では第 2 次産業がやや大きくなっている。
- ・従業者数を産業大分類別にみると、「製造業」で 5,722 人（20.8%）と最も多く、以下「卸売業・小売業」5,717 人（20.8%）、「医療・福祉」4,522 人（16.5%）が続く。
- ・事業所数及び従業者数を産業大分類別にみると、「製造業」や「医療・福祉」で事業所数に対して従業者数が多く、1 事業所当たりの従業者規模が大きいことを示している。一方、「建設業」「卸売業・小売業」は事業所数に対して従業者数が少なく、1 事業所当たりの従業者数が少ない（事業所規模が小さい）ことを示している。

図 産業別事業所数と従業者数（経済センサス）



出典) 亀岡市統計書（平成 28 年経済センサス－基礎調査・経済センサス－活動調査）

図 産業別事業所数と従業者数（経済センサス）

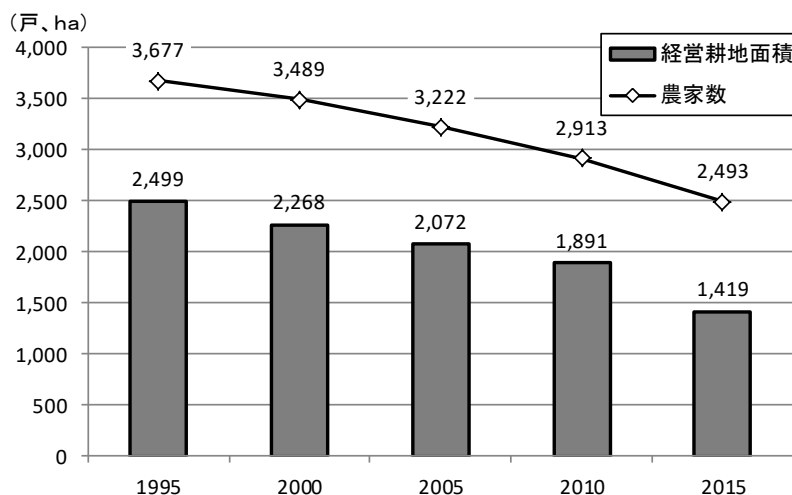


出典) 亀岡市統計書（平成 28 年経済センサス－基礎調査・経済センサス－活動調査）

③ 農業

- ・本市の農用地面積は府内有数を誇り、水稻が中心となっている。また、伝統的な京野菜の産地である。農家数、経営耕地面積は長期的に減少傾向が続いている。

図 農業（総農家数、経営耕地面積）の推移



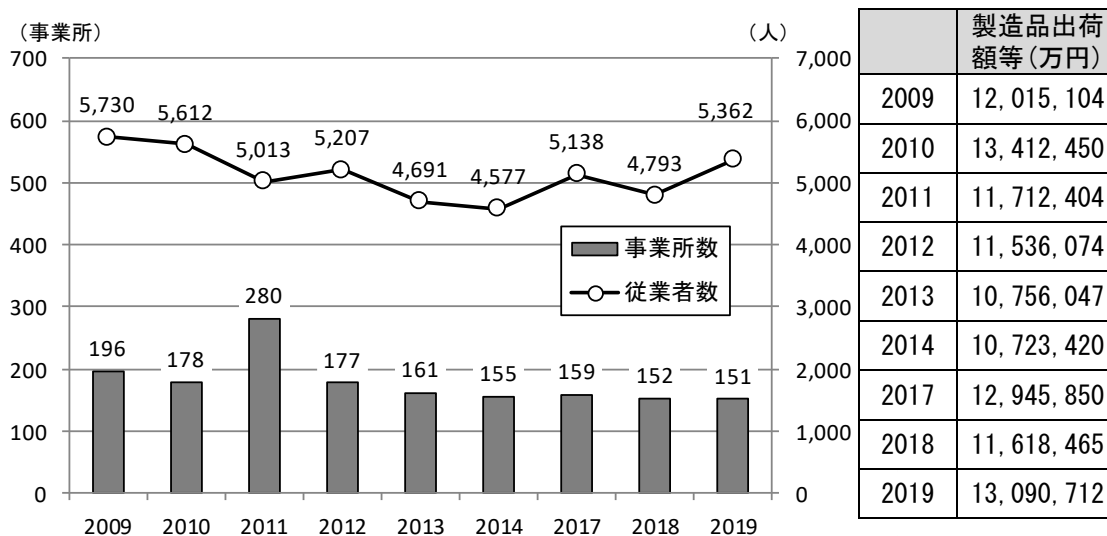
出典) 亀岡市統計書（農林業センサス）

④ 商工業

ア) 工業

- ・本市工業の事業所数・従業者数は近年、ほぼ横ばいとなっている。製造品出荷額は年次により上下があるが、概ね 1000～1400 億円前後で推移している。

図 工業（事業所数、従業者数）の推移



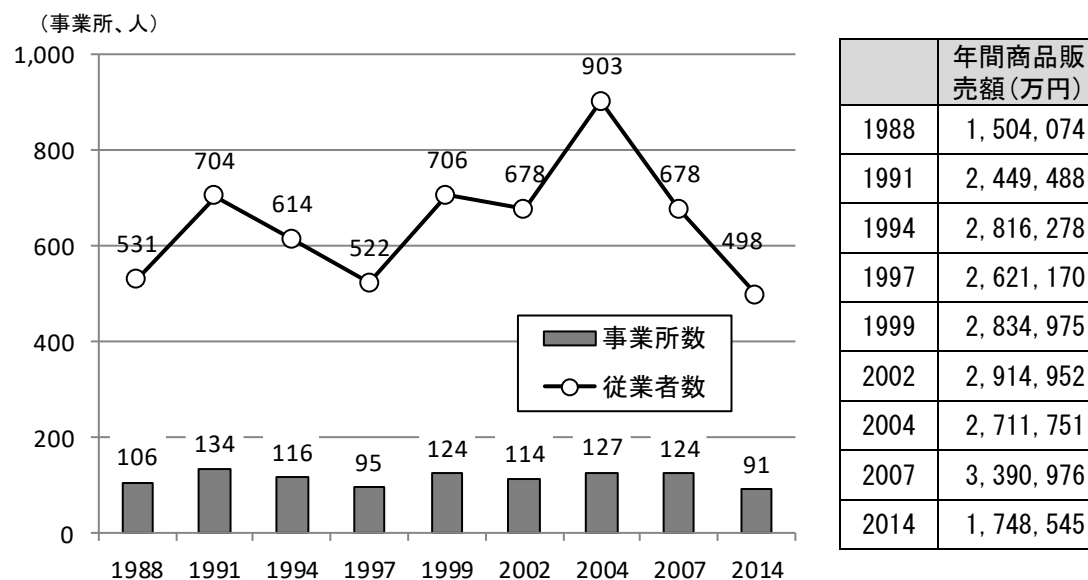
出典) 亀岡市統計書（工業統計調査・経済センサス活動調査）

※ 従業員数 3 人以下の事業所を除く

イ) 商業

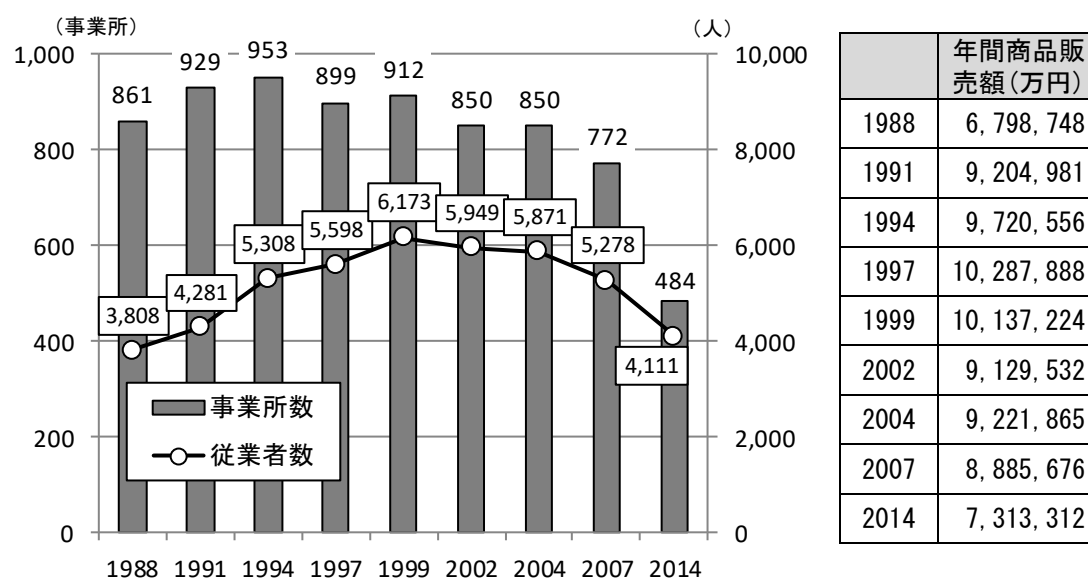
- ・本市商業の事業所数及び従業者数は、卸売業・小売業とも概ね横ばいからやや減少傾向にあった。2007 年から 2014 年にかけての各指標の低下については、この間、リーマンショックに端を発する世界的な金融危機が発生し、日本においても急速な景気後退に陥ったことが要因と考えられる。

図 卸売業（事業所数、従業者数）の推移



出典) 亀岡市統計書(商業統計調査)

図 小売業（事業所数、従業者数）の推移

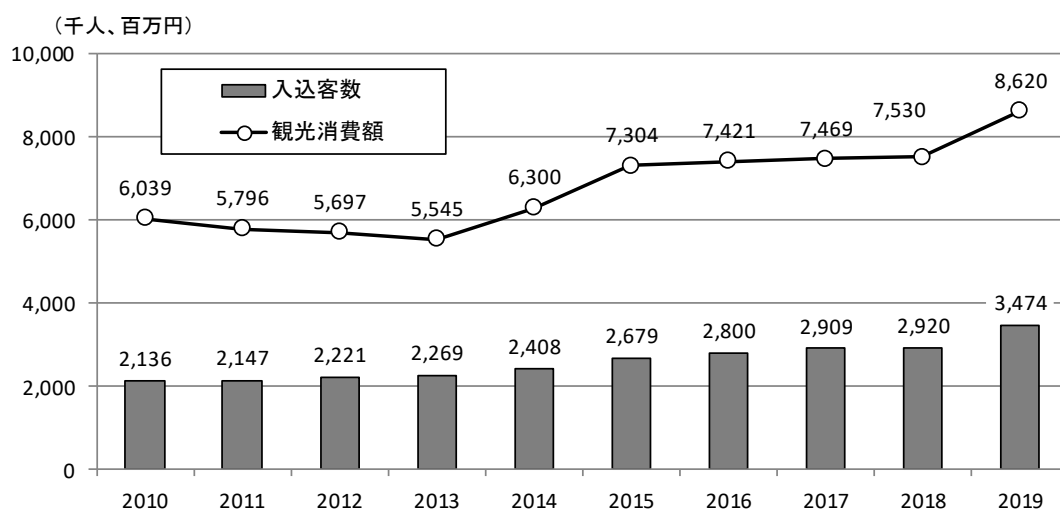


出典) 亀岡市統計書(商業統計調査)

⑤ 観光

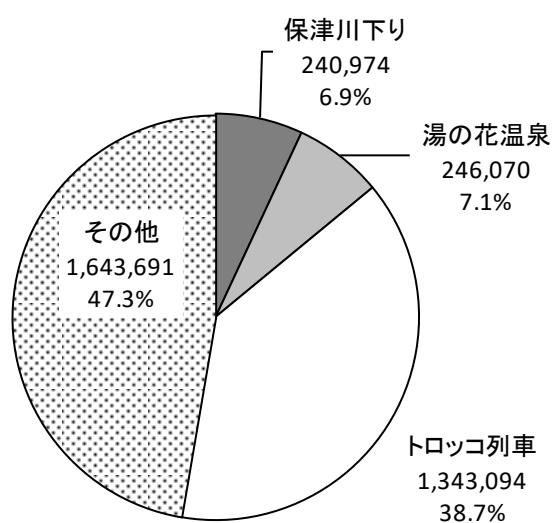
- ・観光入込客数及び観光消費額は、いずれも長期的に増加傾向にあるが、95%を日帰り観光が占めている。一人当たりの観光消費額は、約 2800 円／人（2010 年）から約 2500 円／人（2019 年）とわずかに減少している。
- ・令和元（2019）年では、トロッコ列車の 38.7%をはじめとして、三大観光（トロッコ列車、湯の花温泉、保津川下り）による来訪者が 52.7%を占める。

図 観光入込客数、観光消費額の推移



出典) 亀岡市統計書

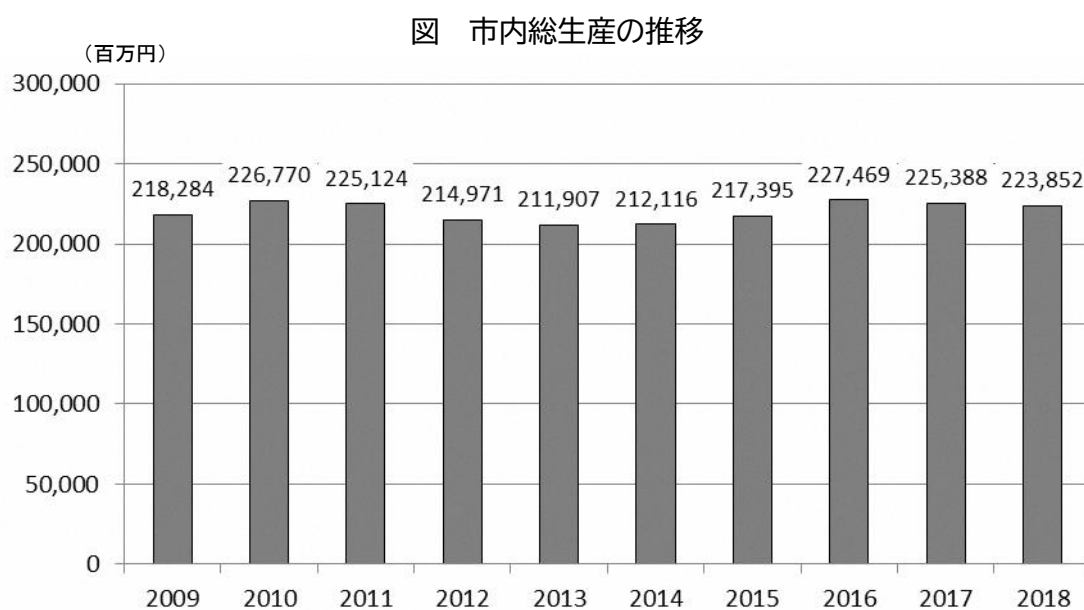
図 観光入込客数に占める三大観光の比率（2019 年）



出典) 亀岡市統計書

⑥ 市内総生産・市民所得

- ・国のGDP（国内総生産）に当たるもので、市町村内の生産活動により生み出された付加価値の総額を示す「市内総生産」は、223,852 百万円（2018 年）で、各年で増減はみられるものの、長期的にみるとほぼ安定しており、京都府内 15 市中 6 位となっている。
- ・雇用者報酬、財産所得、企業所得など市町村の居住者（家計・企業など）が得た所得の合計を示す「市民所得」もほぼ同様の傾向を示しており、2018 年で 217,520 百万円、京都府内 15 市中 7 位となっている。



出典) 平成 30 年度市町村経済計算推計結果 (京都府 2021 年 7 月)

*市町村内総生産…国のGDP（国内総生産）に当たるもので、市町村内の生産活動により生み出された付加価値の総額のこと。

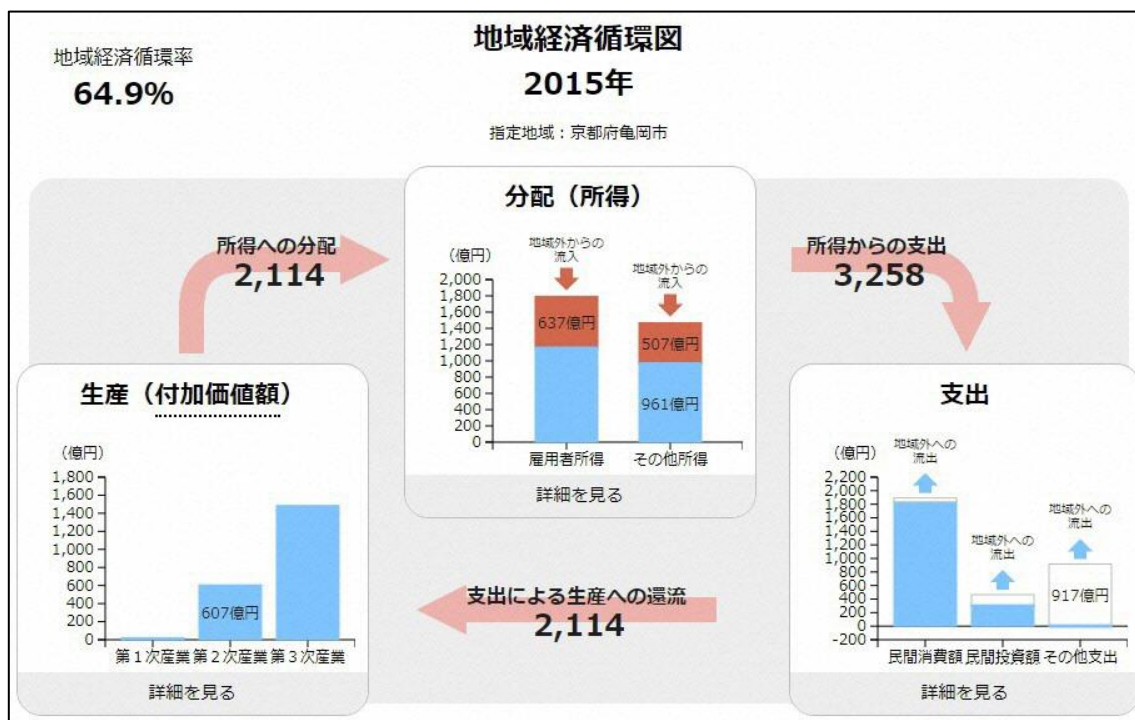
*市町村民所得…雇用者報酬、財産所得、企業所得など市町村の居住者（家計・企業など）が得た所得の合計。個人の給与や所得の水準を表すものではなく、企業の利潤などを含む経済全体の水準を表す。



@かめコレ

⑦ 経済循環率

- ・地域経済の自立度を表す指標のひとつである亀岡市の経済循環率は64.9%で、府内15市中12位にとどまっている。京阪大都市圏の定住を支える（通勤流動における流出が多い）都市の特性、大規模企業等の本社機能の立地が少ないことなどが要因として考えられる。



出典）環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

- * 「地域経済循環率」…生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値で、地域経済の自立度を示す（値が低いほど他地域から流入する所得への依存度が高い）。
- * 「雇用者所得」…主に労働者が労働の対価として得る賃金や給料等。
- * 「其他所得」…財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等、雇用者所得以外の所得。
- * 「其他支出」…「政府支出」＋「地域内産業の移輸出-移輸入」。例えば、移輸入が移輸出を大きく上回り、その差が政府支出額を上回る場合（域外からの財・サービスの購入を通じた所得流出額が政府支出額よりも大きい場合）、「其他支出」の金額がマイナスとなる。

(5) 自然環境

【自然を体験するアクティビティ】

- ・保津川下り、嵯峨野トロッコ列車、湯の花温泉の三大観光は、亀岡の自然や豊かな環境を体験し、非日常における癒しを提供している。
- ・また、晩秋から初春にかけてみられる「雲海」は、その幻想的な光景で注目を集めている。近年、竜ヶ尾山山頂付近に「霧のテラス」を設置している。
- ・そして、山々に囲まれ気流が安定していることを活かした、パラグライダーや気球が楽しめるスポットとなっているほか、保津川を下るラフティングなど自然を活かしたさまざまなアクティビティが楽しめる。
- ・そのほか、サイクリングやハイキングが楽しめるコースや、キャンプが可能な施設など自然を体験する資源を有する。

【地域資源にふれあうアクティビティ】

- ・亀岡市内のＪＲ各駅やインターチェンジ周辺、湯の花温泉、公共施設等において、来訪者を美しい花で迎える「ウェルカムガーデン」の整備が進む。また、関西最大級のコスモス園などが季節ごとに豊かな魅力を提供する。
- ・天然砥石が採掘できるまちとして、亀岡の誇る特産物の魅力など、人と産業とものづくりを紹介する展示・体験施設である、「森のステーションかめおか」を広大な森の中に設置している。



(6) 推進施策

平成30年、『世界に誇れる環境先進都市』の実現に向け、プラスチックごみゼロ宣言を行い、令和2年には全国初となるプラスチック製レジ袋提供禁止条例を制定した。また、同年、内閣府から国際社会で活動が始まっている「SDGs」（エスディーゼーズ＝持続可能な開発目標）の理念を共有する「SDGs未来都市」に選定されたほか、イクボス宣言やデジタルファースト宣言、ウッドスタート宣言など積極的に施策を推進しているところである。

第5次亀岡市総合計画において「人と時代に選ばれる リーディングシティ亀岡」を目指す都市像とし、良好な暮らしの環境、安全・安心の確保、定住・交流の促進など、まちづくりのあらゆる分野において、ニーズを捉え、次の時代をリードし、人に選ばれるまちを創造するため、チャレンジ精神を持って、しなやかな市政運営を推進していく。



2 スポーツの動向と今後の展望

(1) スポーツをとりまく社会動向

① 大規模国際スポーツイベントの開催

- ・日本を大いに盛り上げた「ラグビーワールドカップ 2019」に始まり、2021 年には「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」が開催、その後「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」（2026 年に延期予定）が控えている。
- ・オリンピックが 2020 年、ワールドマスターズゲームズが 2021 年に当初の予定通り開催されていれば、国際スポーツイベントが 3 年間続くことから、2019～2021 年の 3 年間は「ゴールデン・スポーツイヤーズ」と呼ばれ、注目が高まった。
- ・「スポーツ実施率向上のための行動計画（2018 年スポーツ庁）」においても、「アスリートのプレーを『みる』、ボランティアとして『支える』ことから『する』スポーツへの興味が喚起され、行動へつながることが期待される。大規模国際スポーツイベントを契機に、スポーツ意識を高め、自らの健康・体力の保持・増進等を進める取組がレガシーとなり、高齢社会において活力ある社会づくりにつながる」としている。

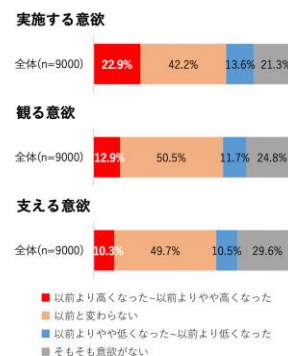
② 健康スポーツ意識の高まり

- ・高齢社会における高年期の QOL の向上や介護予防のためには、病気のリスクを減らすための保健事業の充実・強化とともに、青年期からの運動習慣や生活習慣病対策の取組に対する意識が高まっている。
- ・また、社会のあり方にも大きく影響している新型コロナウイルス感染症の拡大において、スポーツの実施・観戦意欲がやや高まっており、スポーツ庁においても、感染症による健康二次被害への警鐘を鳴らしている。

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、「新しい生活様式」を実践し、中長期に渡り感染症対策と向き合う中で、運動不足から身体的及び精神的な健康を脅かす健康二次被害も懸念されます。（中略）
- ・意識的に運動・スポーツに取り組むことは、健康の保持・増進だけでなく、ストレス解消、自己免疫力を高めてウイルス性感染症を予防することにも役立ちます。

出典)「With コロナ時代に、運動不足による健康二次被害を予防する為に」抜粋(2021 年スポーツ庁)

新型コロナウイルス流行後におけるスポーツを実施する意欲・観る意欲・支える意欲



出典)「新型コロナウイルス感染症の流行による国民のスポーツへの参画状況や意識の変化、健康状態等に関する調査研究」(2021 年スポーツ庁)

(2) 国・京都府の動向

① 関連する京都府の動向

- ・ 京都府総合計画（京都夢実現プランー2019年）では、府内5つのエリアに着目した地域の個性ある魅力づくりについての構想と、山城・南丹・中丹・丹後の広域振興局ごとに各地域の資源や特性を踏まえた地域振興計画を示している。
- ・ 亀岡市を含む南丹広域振興局管内においては、「京都スタジアムを中核とするスポーツ&ウェルネス構想」として、次のような方向性を示している。

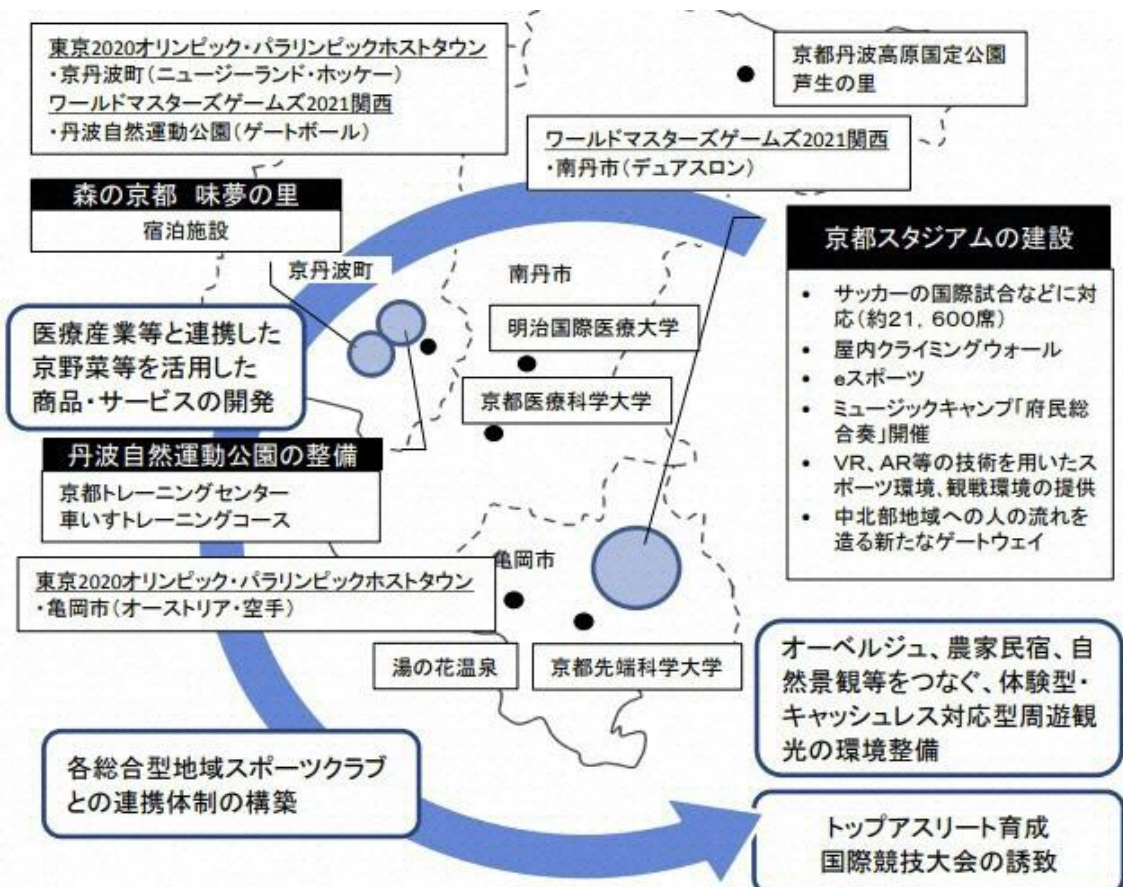
「京都スタジアムを中核とするスポーツ&ウェルネス構想」

■ 京都スタジアムを核とした元気あふれる交流都市圏の形成

「京都スタジアム」の完成を契機に、大学や京都トレーニングセンター、府内スポーツ施設の連携を進め、丹波高原や桂川・由良川もフィールドとして活用しながら、内外から人が集まる日本有数のスポーツ・健康エリアとして、食やスポーツ科学と連携した地域づくりを進めます。

【主要な取組】

- トップアスリートの育成とスポーツのメッカづくり
- スポーツ、食や癒しによる健康づくりの先進モデル地域づくり



出典）京都府ホームページより

② 関連する国等の動向

【健康づくり運動等】

- ・健康寿命の延伸などを実現するため、厚生省（現・厚生労働省）によって 2000 年に始められた「21 世紀における国民健康づくり運動」（通称「健康日本 21」）等においては、次のような方向・目標を示して健康づくり運動を進めてきた。

第1次国民健康づくり運動（1978～） ・健康診査の充実 ・市町村保健センター等の整備 ・保健師等のマンパワーの確保	第4次国民健康づくり運動（2013～） ～健康日本21（第二次）～ ①健康寿命の延伸と健康格差の縮小 ②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底（NCD（非感染性疾患）の予防） ③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上 ④健康を支え、守るための社会環境の整備 ⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙、歯・口腔の健康に関する生活習慣の改善及び社会環境の改善
第2次国民健康づくり運動（1988～） ～アクティブ80ヘルスプラン～ ・運動習慣の普及に重点をおいた対策（運動指針の策定、健康増進施設の推進等）	
第3次国民健康づくり運動（2000～） ～健康日本21～ ・一次予防の重視 ・健康づくり支援のための環境整備 ・具体的な目標設定とその評価 ・多様な実施主体間の連携	次期国民健康づくり運動プラン （2023～予定）

出典）「国民健康づくりの最近の動向」（厚生労働省資料）より抜粋

- ・また、健康日本 21（第二次）に係る取組の一環として「健康づくりのための身体活動基準 2013」及び「健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）」が 2023 年を目標として策定されている。



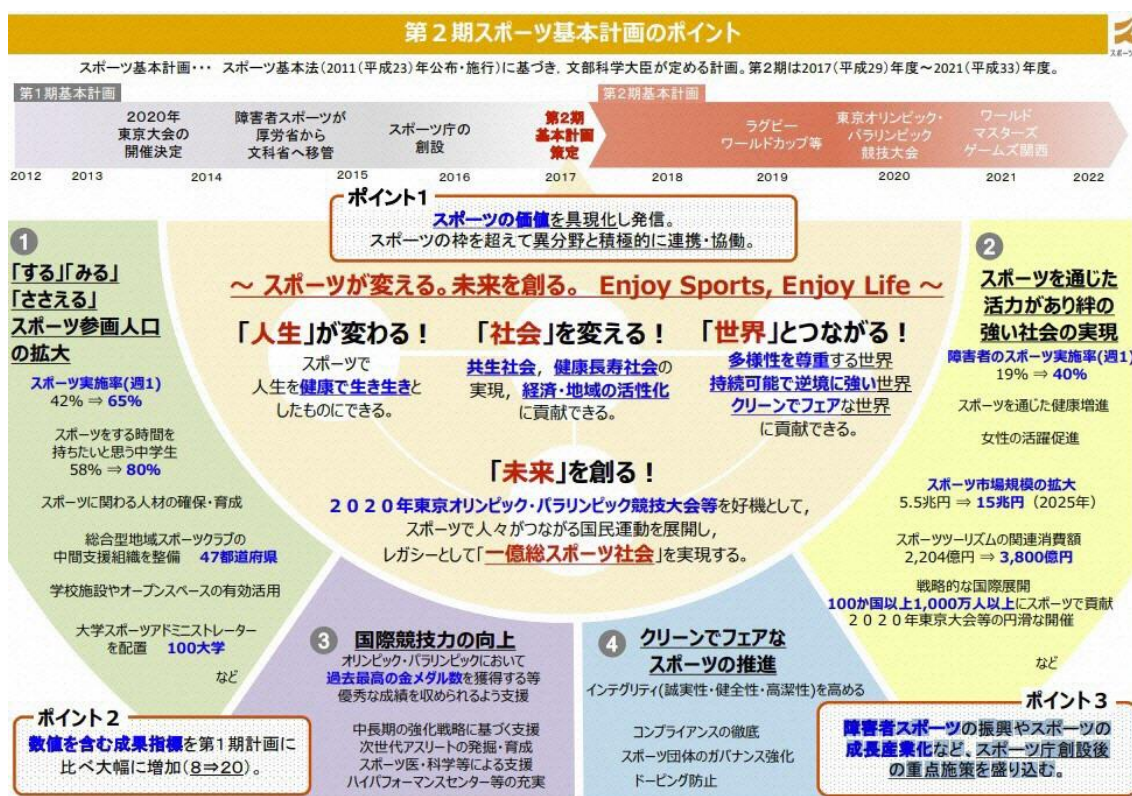
出典）スポーツを通じた健康増進のための厚生労働省とスポーツ庁の連携会議資料

- ・なお、2022 年「次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会(仮)」の設置、2023 年春を目途に次期プランの公表、2023 年度に都道府県計画等の策定・公表の予定。

【スポーツ基本計画】

- ・ 2011 年に交付・施行された「スポーツ基本法」に基づき、スポーツに関する総合的な施策の推進を定めたスポーツ基本計画が 2012 年に第 1 期、2017 年に第 2 期として策定されている。

スポーツ基本計画（2012－2017）	第 2 期スポーツ基本計画（2017－2021）
・ 年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができるスポーツ環境の整備 ①子どものスポーツ機会の充実 ②ライフステージに応じたスポーツ活動の推進 ③住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備 ④国際競技力の向上 ⑤国際交流・貢献の推進 ⑥スポーツ界の透明性、公平・公正性の向上 ⑦好循環の創出	・ スポーツが変える。未来を創る。 Enjoy Sports, Enjoy Life ①「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大 ②スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現 ③国際競技力の向上 ④クリーンでフェアなスポーツの推進 【第 1 期からの変化】 ・ スポーツの価値を具現化し発信 ・ 数値を含む成果指標を大幅に増加（8⇒20） ・ 障害者スポーツの振興、スポーツの成長産業化など、スポーツ庁後の重点施策の盛り込み

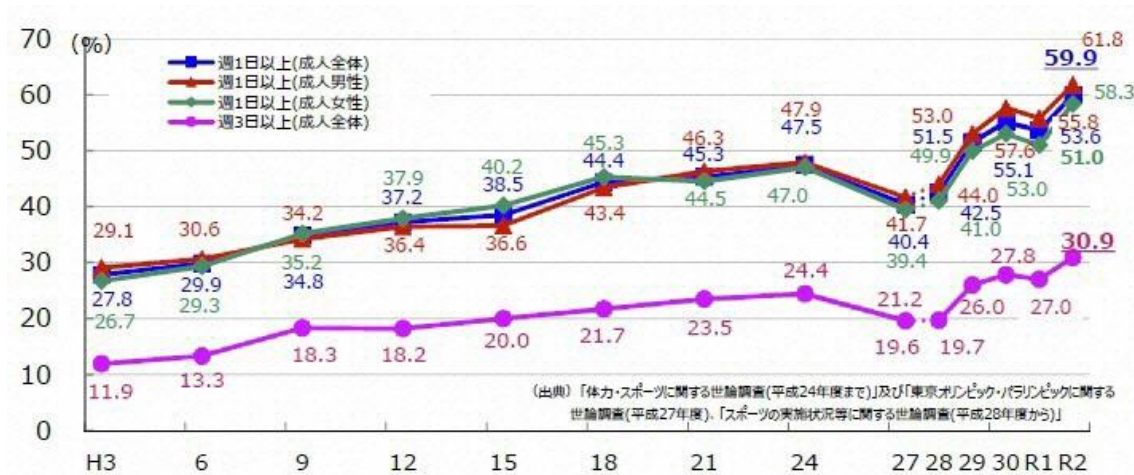


- ・ さらに、2021 年 4 月のスポーツ審議会において、室伏スポーツ庁長官より第 3 期スポーツ基本計画の策定について諮問があり、2021 年度中に第 3 期計画で盛り込むべき内容として、今後のスポーツ施策の推進についての基本的方針及び諸方策を提示。

(3) スポーツニーズ等の動向

- ・スポーツ庁による「スポーツの実施状況等に関する世論調査」(2020 年度)をみると、成人の週 1 日以上スポーツ実施率は 59.9% (前年度 53.6%) と 6.3 ポイント増加しており、全ての年代層で前年度を上回っている。特に女性の 20 代～40 代、男性の 20 代～30 代の各層で 10 ポイント程度向上。
- ・スポーツ実施の頻度が増えた回答者にその理由を尋ねたところ、「コロナウイルス感染症対策による日常生活の変化」「仕事が忙しくなくなったから」が上位。
- ・「現在運動・スポーツはしておらず今後もするつもりはない」と答えた「無関心層」が 13.2% (前年度 15.2%、2.0 ポイントの減少)

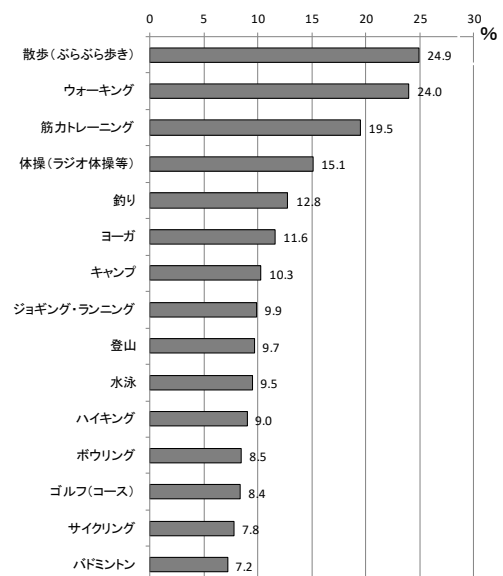
○運動・スポーツ実施率の推移



出典)「スポーツの実施状況等に関する世論調査」(2020 年度)

- ・笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2020 年度)によると、今後行いたい運動・スポーツの種目としては、「散歩(ぶらぶら歩き)」を選択した回答が最も多く、以下「ウォーキング」、「筋力トレーニング」、「体操(ラジオ体操等)」など、身近・日常的に取り組むことのできる種目に対するニーズが高い。
- ・同調査は 2020 年 8～9 月に実施されており、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う移動制限や施設の利用の制限等が影響している可能性も指摘されている。

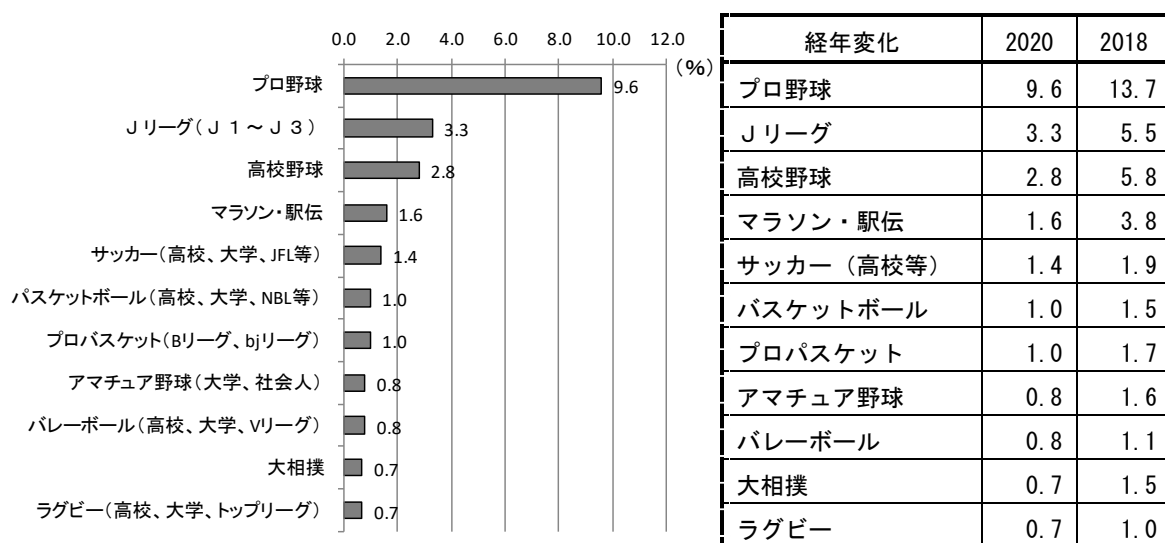
○今後行いたい運動・スポーツ種目(複数回答)



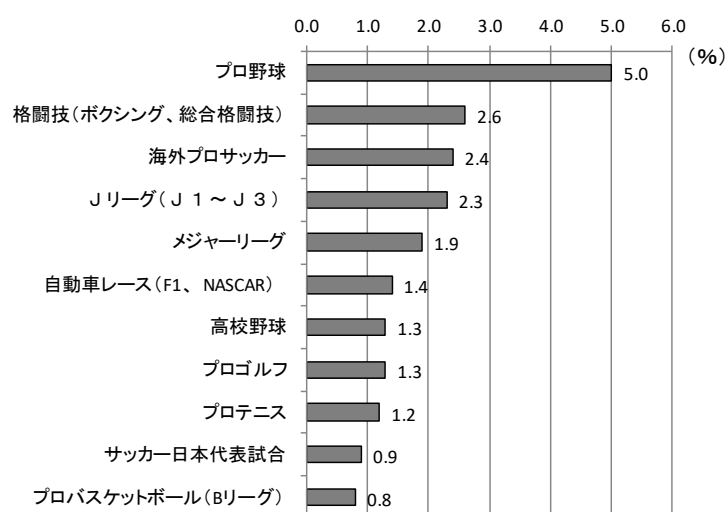
※出典)「スポーツライフ・データ 2020」(笹川スポーツ財団)

- ・同調査からスポーツ観戦の状況をみると、過去1年間における直接のスポーツ観戦で最も観戦率が高い種目は「プロ野球」の9.6%で、以下「Jリーグ（J1～J3）」、「高校野球」、「マラソン・駅伝」、「サッカー（高校、大学、JFLなど）」が続く。
- ・2018年との比較では、総じて観戦率が低下している。
- ・近年、利用が拡大するインターネットによる過去1年間のスポーツ観戦状況をみると、最も観戦率が高いのは「プロ野球」で5.0%、以下、「格闘技（ボクシング、総合格闘技など）」、「海外プロサッカー（欧州、南米等）」、「Jリーグ（J1～J3）」、「メジャーリーグ（アメリカ大リーグ）」が続く。

○種目別直接スポーツ観戦率（複数回答）



○インターネットによる種目別スポーツ観戦率（複数回答）



出典）「スポーツライフ・データ 2020」（笹川スポーツ財団）

(4) スポーツツーリズム・アウトドアレジャーの展望

① スポーツツーリズム

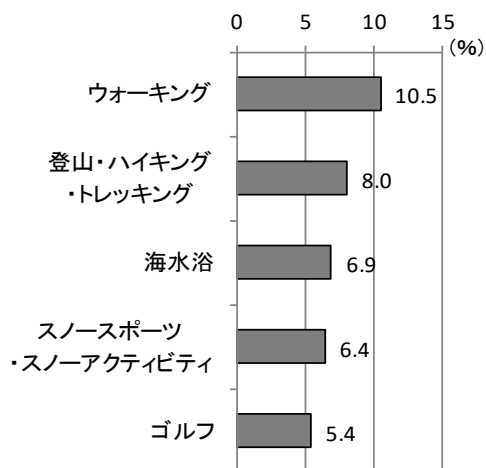
- ・スポーツ庁が実施した「スポーツツーリズムに関する国内マーケティング調査報告書」（平成 30 年 3 月）によると、日本国内におけるスポーツツーリズムの動向やニーズについて、次のように分析している。

- ❖ 「する」スポーツツーリズムの過去の経験率は 28.2%。経験のある「する」スポーツとしては「ウォーキング」「登山・ハイキング・トレッキング」「海水浴」が上位。
- ❖ 「みる」スポーツツーリズムの経験率は 21.9%。経験のあるスポーツは「プロ野球」「国内プロサッカー」など地域に根付き、スタジアムを持つプロスポーツがランクイン。
- ❖ 主目的として経験してみたい「する」スポーツツーリズムは、「ウォーキング」「登山・ハイキング・トレッキング」が上位。
- ❖ 主目的として経験してみたい「みる」スポーツツーリズムは、「プロ野球」が 1 位。ただし性別・年代別に多様な特徴。
- ❖ 今後、スポーツツーリズムに併せて実施したいこととしては、「旅先ならではの食事を楽しみたい」「旅先ならではの観光スポットを楽しみたい」が人気。
- ❖ 「する」「みる」スポーツに関連して求められるモノ・サービスとしては、「着替えができる施設やシャワー・入浴施設」「休憩スポット・トイレ」などの施設・設備や「周辺の観光スポットや行事の案内」「旅行現地での講習・指導」「事前に観戦場所や座席を確保してくれるサービス」などの需要が高い。
- ❖ スポーツツーリズムに関する情報収集源としては、「Google や Yahoo などの検索エンジン」が突出、また、一般的な旅行に比べて「友人・知人の口コミ」の比率が高い。

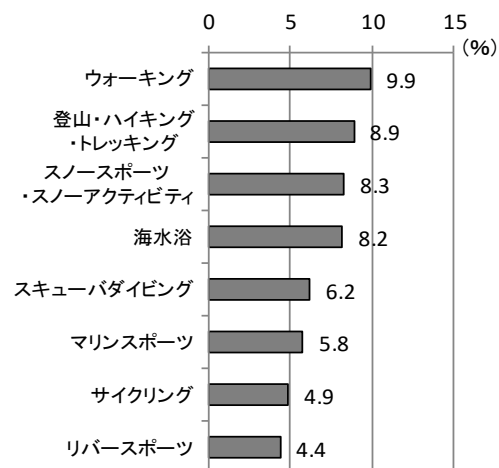
※スポーツツーリズムに関する国内マーケティング調査報告書（平成 30 年 3 月）抜粋

- ・本市はプロスポーツ・スタジアムのほか、豊かな自然を背景とした来訪者への観光・食の提供、温泉など、こうしたニーズに対して大きなポテンシャルを有している。

○経験したことがある「する」
スポーツツーリズム

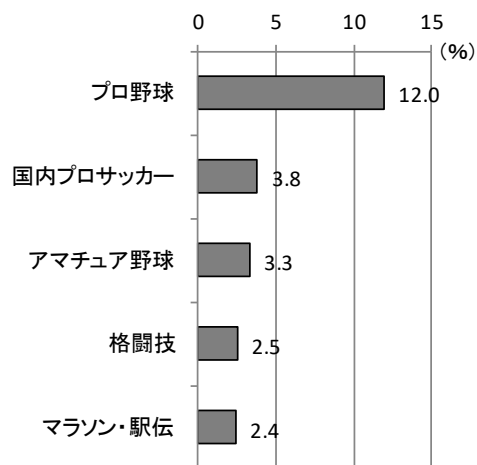


○経験してみたい「する」
スポーツツーリズム（主目的）

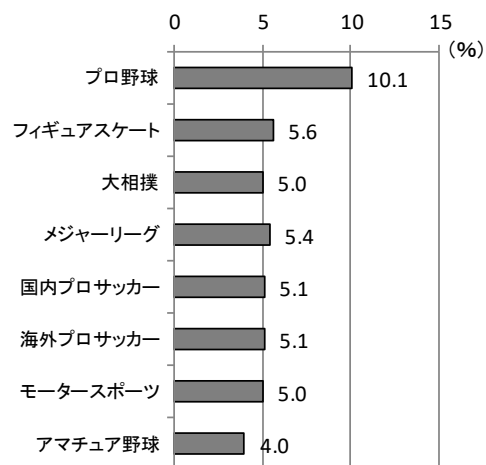


出典) スポーツツーリズムに関する国内マーケティング調査報告書（平成 30 年 3 月）

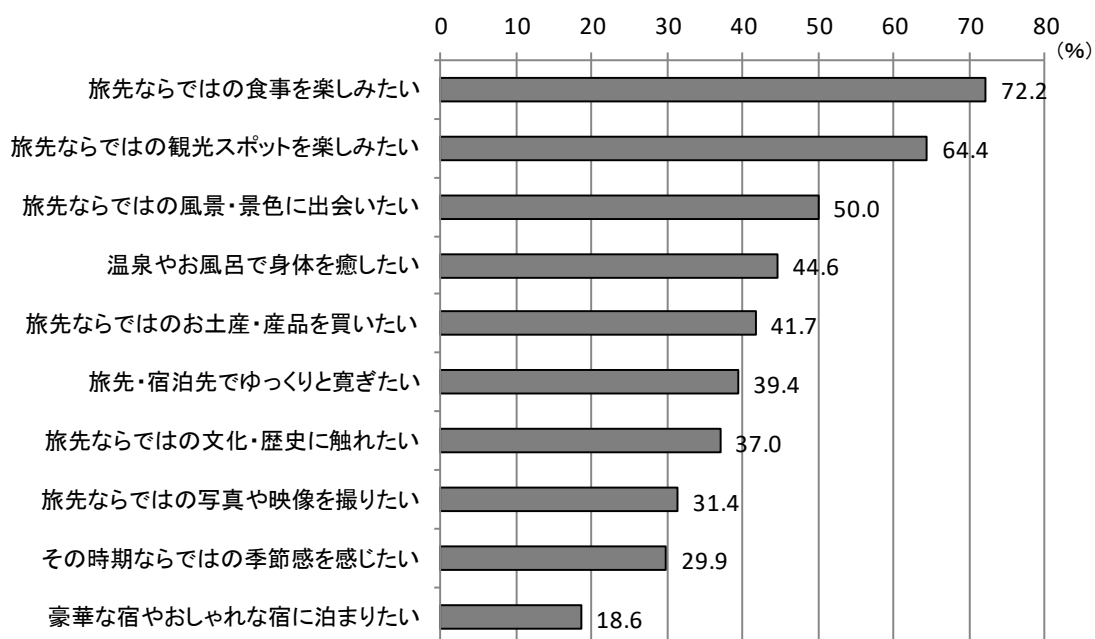
○経験したことがある「みる」
スポーツツーリズム



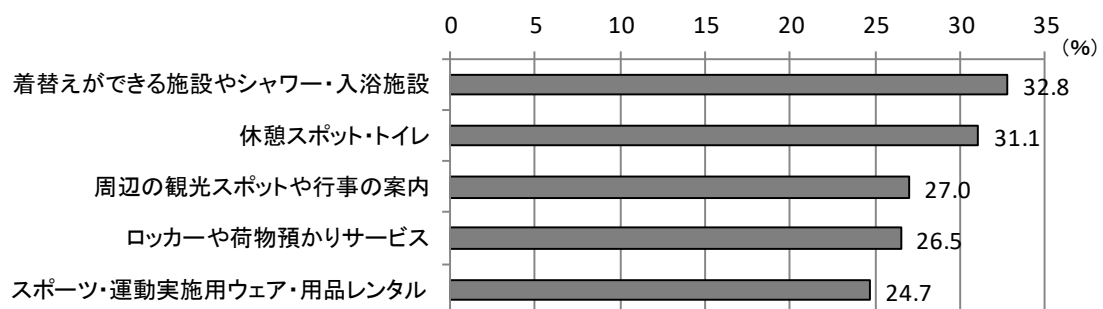
○経験してみたい「みる」
スポーツツーリズム (主目的)



○スポーツツーリズムに合わせて実施したいこと



○「する」スポーツツーリズムに関連するニーズ

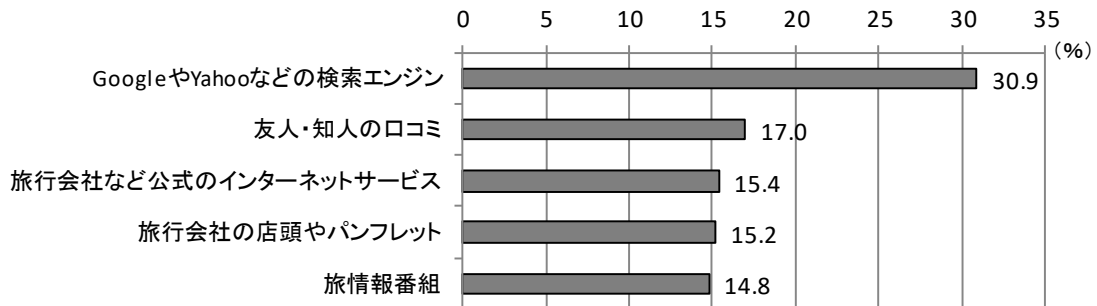


出典) スポーツツーリズムに関する国内マーケティング調査報告書 (平成 30 年 3 月)

○「みる」スポーツツーリズムに関連するニーズ



○スポーツツーリズムに関する情報収集源

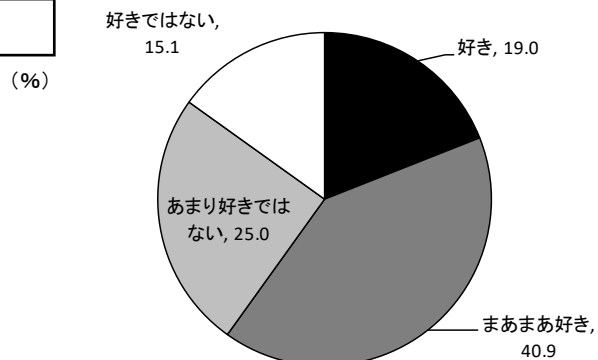


出典) スポーツツーリズムに関する国内マーケティング調査報告書 (平成 30 年 3 月)

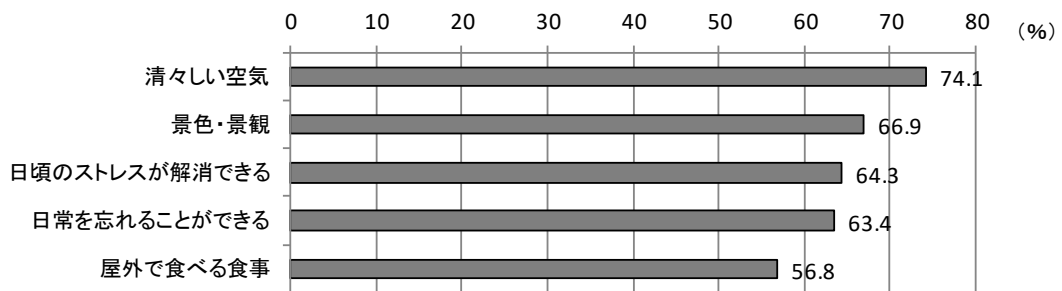
② アウトドア

- ・「アウトドアに関する調査」(2018 年マクロミル調べ) によると、アウトドアが好きな比率(「好き」+「まあまあ好き」)は 59.9%。
- ・アウトドアの魅力は、「清々しい空気」「景色・景観」などの自然・環境、「日々のストレスが解消できる」「日常を忘れることができる」など非日常の経験が上位。
- ・今後泊まりたい場所としては、泊まった経験に比べ「ログハウス・コテージ・ロッジ・バンガロー」の比率が高い。

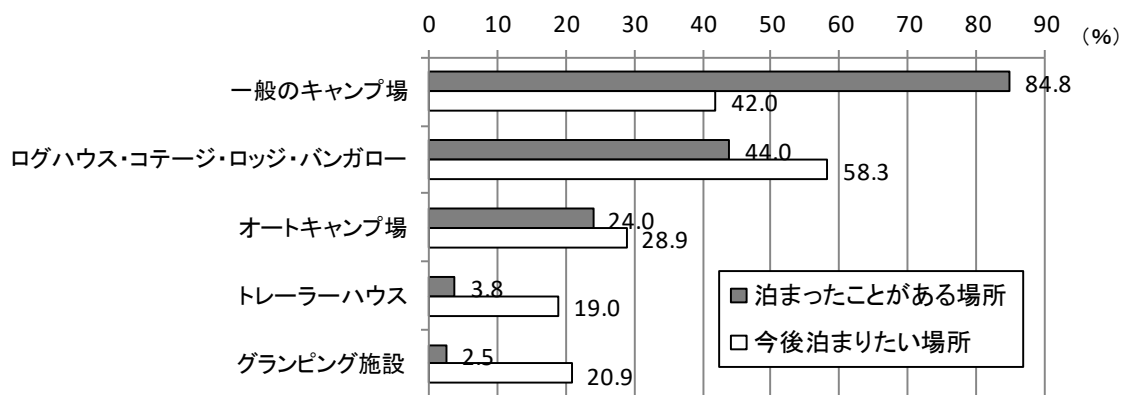
○アウトドアが好きか



○アウトドアの魅力



○キャンプで泊まったことがある場所と今後泊まりたい場所

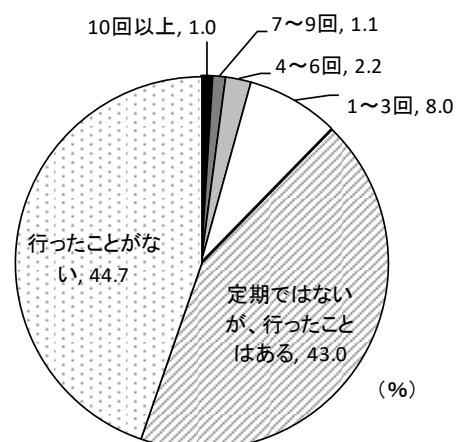


出典)「余暇・レジャー&観光総合統計 2020-2021」
(マクロミル「アウトドアに関する調査」[2018年6月])

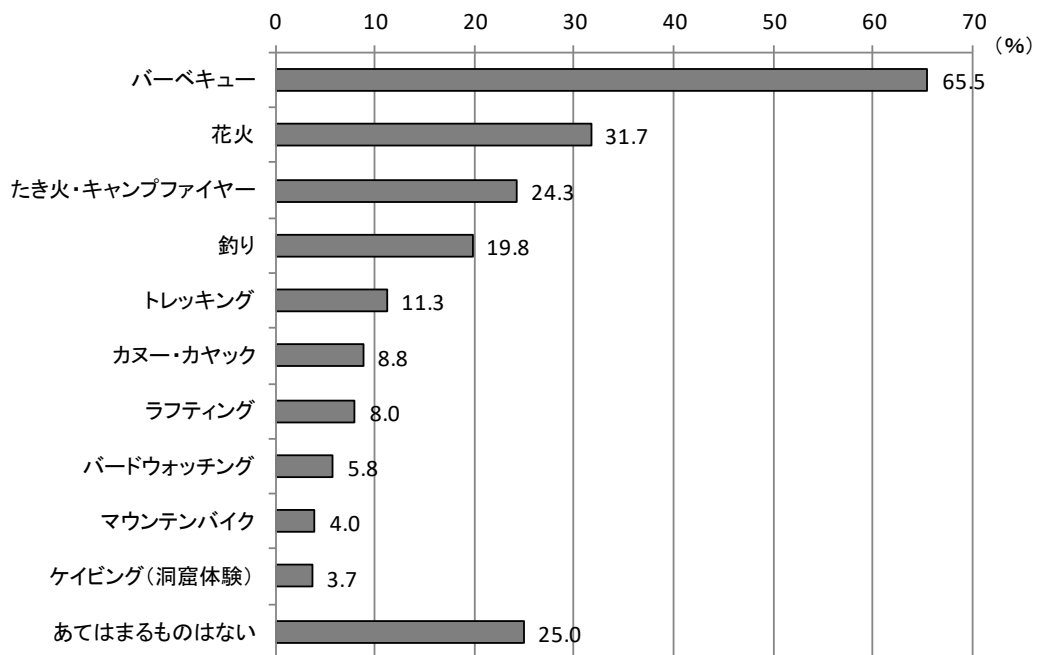
③ キャンプ

- ・「キャンプについての調査」(2017年アイブリッジ株調べ)によると、年間でキャンプを行ったことがある人の比率が半数を超えている。
- ・キャンプでやりたいアクティビティとしては、「バーベキュー」が突出し、「花火」「たき火・キャンプファイヤー」「釣り」「トレッキング(登山・ハイキング)」等が続いている。

○アウトドアが好きか

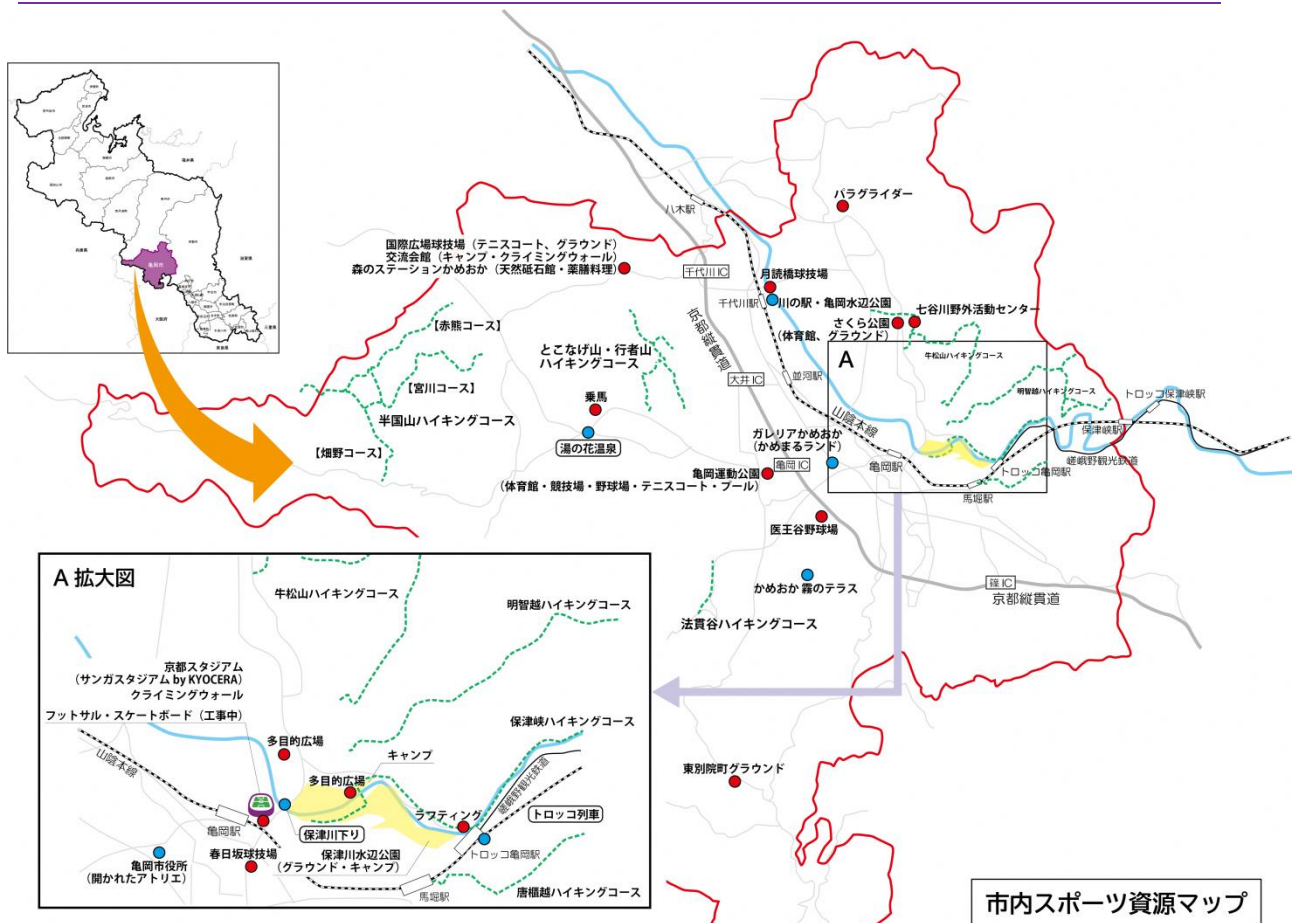


○キャンプでやりたいアクティビティ



出典)「余暇・レジャー&観光総合統計 2020-2021」
(アイブリッジ株)「キャンプについての調査」[2017年10月]

3 亀岡市におけるスポーツ資源等の現状



(1) 市内スポーツ機能の現状

- ・ 亀岡市内には、豊かな自然の中、広い敷地を利用して、さまざまなスポーツを楽しむ中核的な施設として亀岡運動公園やさくら公園があるほか、春日坂球技場、国際広場、月読橋球技場、医王谷野球場などの球技場が立地している。

① 市内主要スポーツ施設の概要

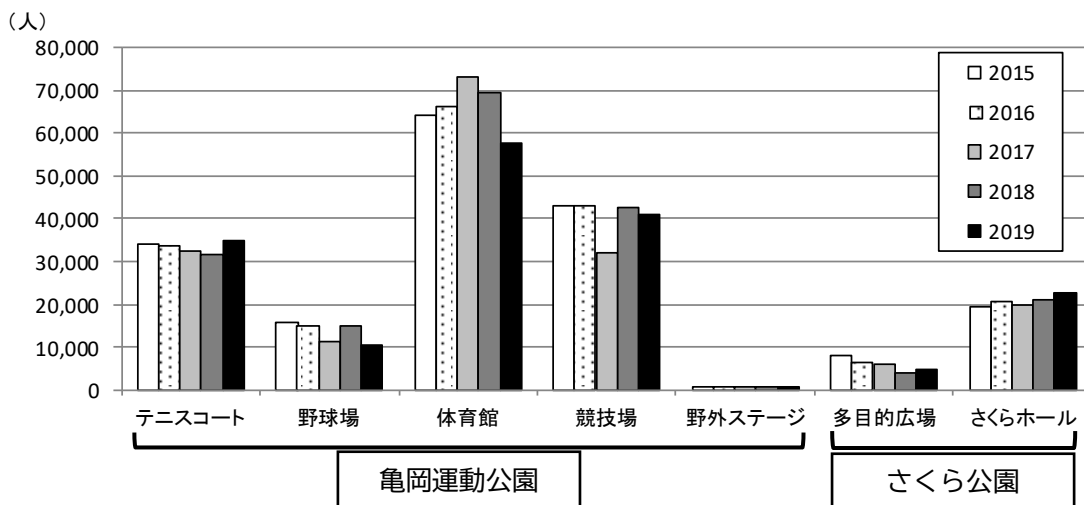
名称	施設等	設備等	備考
亀岡運動公園	大体育館	床面積 1,836 m ² 観覧席 1,120 席	バスケットボール バレーボール
	小体育館	床面積 810 m ²	テニス
	トレーニングルーム		バドミントン
	ジョギングコース		卓球 ほか
	テニスコート	砂入り人工芝コート 壁打コート 1 面 夜間照明付 更衣室	硬式テニス ソフトテニス
	野球場	両翼 80m センター100m 観覧席 400 人 夜間照明 6 基 ダッグアウト スコアボード	軟式野球
	競技場	第 3 公認陸上競技場 全天候型ウレタン舗装 観覧席約 6,000 人	陸上競技 ラグビーフットボール サッカーほか
	野外ステージ		
さくら公園	レジャープール	造波プール 流水プール 幼児プール スポーツプール ウォータースライダー グリーンハウス（管理棟） 宿泊室 8 室 健康運動相談室	
	さくらホール（体育館）	延床面積 1,470.66 m ²	バスケットボール 1 面 バレーボール 2 面 テニス 1 面 バドミントン 4 面 ソフトバレーボール 4 面 卓球 6 面
	多目的広場	5,000 m ²	ソフトボール 1 面 少年軟式野球 1 面 ほか
	スポーツ相談室		

名称	施設等	設備等	備考
春日坂球技場	テニスコート	1,273 m ²	テニス全天候型 2 面 夜間照明付
国際広場球技場	テニスコート	1,514 m ²	全天候型 2 面
	多目的広場	5,474 m ²	ソフトボール 1 面 少年軟式野球 1 面 少年サッカー 1 面
月読橋球技場	屋外球技場	17,282 m ²	ソフトボール 4 面 軟式野球 2 面 サッカー 1 面 ラグビー 1 面
月読橋第 2 球技場	屋外球技場	10,039 m ²	ソフトボール 2 面 少年軟式野球 2 面 少年サッカー 1 面 少年ラグビー 1 面
月読橋第 3 球技場	屋外球技場	4,881 m ²	ソフトボール 1 面 少年軟式野球 1 面 少年サッカー練習用 少年ラグビー少年用
医王谷野球場	野球場	8,613 m ²	軟式野球 1 面
東別院グラウンド	多目的運動場	8,470 m ²	軟式野球 1 面

② 主要スポーツ施設の利用状況

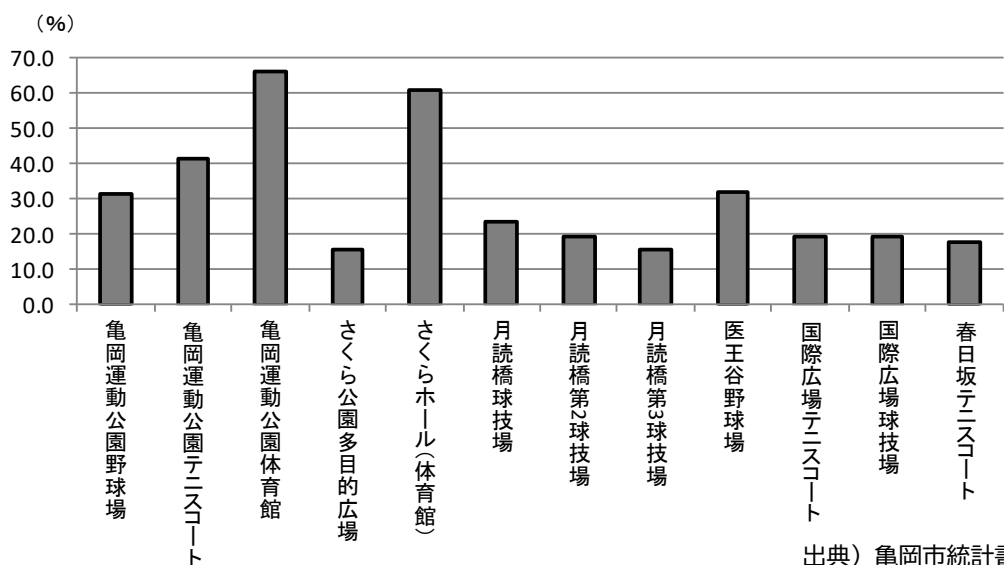
- ・ 亀岡運動公園・さくら公園の利用状況をみると、体育館、さくらホールの屋内施設の利用率が高い。最近 5 年における利用人員は、年度によって増減があるが、あまり大きな変化はみられない。

図 亀岡運動公園・さくら公園 利用人員の推移



出典) 亀岡市統計書

図 社会体育施設 利用率



出典) 亀岡市統計書

③ 市内アウトドアスポーツ事業利用者数

	年間利用者数（延べ）	対象年
ラフティング（5 事業者合計）	38,000 人	平成 30 年度
乗馬	1,680 人	平成 30 年度
パラグライダー	358 人	平成 30 年度
保津川下り（遊船）	240,974 人	令和元年度
交流会館（キャンプサイト）	1,672 人	令和元年度
野外活動センター（キャンプ）	16,484 人	令和元年度
交流会館（スポーツクライミング）	2,199 人	令和 2 年度

※亀岡市資料

④ 丹波・亀岡ハイキングコースの概要

ハイキングコース名		コース
明智越ハイキングコース		J R 亀岡駅→登り口→峯の堂→土用の霊泉→水尾旧道→J R 保津峡駅
牛松山ハイキングコース		J R 亀岡駅→北保津→十五丁→金比羅神社→国分→J R 亀岡駅
川東ハイキングコース		J R 亀岡駅→養仙寺→国分寺跡→七谷川野外活動センター→出雲神社→車塚古墳→平の沢公園→長林寺→J R 千代川駅
とこなげ・行者山ハイキングコース		J R 亀岡駅→奥条→瑞巖寺→とこなげ山（千手寺）
半国山ハイキングコース	湯の花・宮川コース	湯の花温泉→谷性寺→宮川→宮川神社→金輪寺→半国山頂
	赤熊コース	J R 亀岡駅→赤熊→霊石観音→牛つなぎ（広場）→半国山頂
	畑野コース	J R 亀岡駅→千ヶ畑→半国山頂
唐櫃越ハイキングコース		J R 馬堀駅→如意寺→みすぎ山→沓掛山→日の出展望台→苔寺バス停

※亀岡市資料

(2) 府立京都スタジアム（サンガスタジアム by KYOCERA）の状況

- ・府立京都スタジアムは、京都府におけるスポーツ及び文化の振興を図るとともに、地域のにぎわい創出に資するため設置する施設で、収容人数 21,600 人を有する府内唯一の専用球技場。京都サンガ F.C. のホームスタジアムとして活用されるほか、サッカーやラグビーなどの国際試合が開催可能なスポーツ施設であるとともに、音楽や地域振興の催し物など、府内最大級のイベント会場としても大きな期待が寄せられている。
- ・スタジアムの設置趣旨に賛同した地元企業の京セラ株式会社が、ネーミングライツパートナーとなり、通称「サンガスタジアム by KYOCERA」。「サンガ」の名前を冠することで、京都経済界を含め、府民が一体となったオール京都でスタジアムを盛り上げ、京都のさらなる発展に貢献したい、という願いが込められている。

【スタジアム概要】

名 称	サンガスタジアム by KYOCERA（府立京都スタジアム）
収容人数	約 21,600 人
屋 根	観客席最前列より 2m 張り出した屋根で全席を覆う
観戦環境	スタンド最前列からピッチまでの距離 ・メインスタンド 8.5 m ・バックスタンド 7.5 m ・南北サイドスタンド 10.5 m ・スタンド最前列とピッチの高低差 1.2 m
フィールド	126m（南北）×84m（東西） ※サッカー・ラグビー国際試合開催可
大型映像装置	2 基
照 明	（LED）フィールドの照度 1,500ルクス以上
天然芝	通風・日照・散水機能の充実、耐陰・耐寒性に優れた品種を採用
概 要	サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールなどの専用球技場。フィールドの広さは南北 126m×東西 84m で亀岡駅の東側に位置する。客席の最前列より 2メートル前へ張り出す屋根が特徴で、ピッチとスタンドはわずか 1.2メートルの高低差。映像設備は、帯状装置がバックスタンドの 1 階壁面と南北のサイドスタンド前に設置され、2 階のオープンコンコースにディスプレイが並び、観客席以外からも催しを楽しむことができる。またスタンドの下にはフードコート等の商業店舗も併設し、地域振興の一役を担う。

※サンガスタジアム by KYOCERA WEB サイトより

- ・府立京都スタジアム（サンガスタジアム by KYOCERA）は完成当初からコロナ禍に見舞われ、無観客や入場者数制限を受けた開催が続くなど、施設・設備の機能を十分に発揮することができない状況が続いてきた。

- ・こうした中でも、2021 年後半には京都サンガ F.C. の J 1 昇格という活躍もあり、収容制限の上限近い入場者を記録している。

【サンガスタジアム by KYOCERA 2020 年入場者数】

J 2 リーグ				
節	試合日	対戦相手	入場者数 (人)	備考 (入場制限)
第 2 節	6 月 28 日 (日) 18:00	ジュビロ磐田	0	無観客
第 4 節	7 月 11 日 (土) 18:30	アビスパ福岡	3,063	上限 5,000 人
第 6 節	7 月 19 日 (日) 18:30	愛媛 F C	2,721	↓
第 9 節	8 月 2 日 (日) 18:30	F C 町田ゼルビア	3,062	↓
第 11 節	8 月 12 日 (水) 19:03	水戸ホーリーホック	3,749	↓
第 14 節	8 月 23 日 (日) 18:30	松本山雅 F C	3,194	↓
第 17 節	9 月 5 日 (土) 18:30	ジェフユナイテッド千葉	3,401	↓
第 19 節	9 月 13 日 (日) 18:30	F C 琉球	2,972	↓
第 21 節	9 月 23 日 (水) 18:30	栃木 S C	1,797	↓
第 22 節	9 月 26 日 (土) 18:30	大宮アルディージャ	4,133	↓
第 25 節	10 月 10 日 (土) 14:00	アルビレックス新潟	4,072	上限 10,800 人
第 27 節	10 月 18 日 (日) 14:00	レノファ山口 F C	4,079	↓
第 28 節	10 月 21 日 (水) 18:30	ギラヴァンツ北九州	2,138	↓
第 30 節	11 月 1 日 (日) 14:00	モンテディオ山形	4,744	↓
第 31 節	11 月 4 日 (水) 19:00	ファジアーノ岡山	2,307	↓
第 33 節	11 月 11 日 (水) 19:00	東京ヴェルディ	1,926	↓
第 35 節	11 月 21 日 (土) 14:03	徳島ヴォルティス	8,589	↓
第 36 節	11 月 25 日 (水) 19:03	ヴァンフォーレ甲府	1,616	↓
第 38 節	12 月 2 日 (水) 19:03	V・ファーレン長崎	2,119	↓
第 41 節	12 月 16 日 (水) 19:03	ツエーゲン金沢	2,090	↓
第 42 節	12 月 20 日 (日) 14:03	ザスパクサツ群馬	4,644	↓

2020 J リーグプレシーズンマッチ				
節	試合日	対戦相手	入場者数 (人)	備考
	2 月 9 日 (日) 14:00	セレッソ大阪	17,938	
2020 年度 合計		22 試合	84,354	平均 3,834 人

【サンガスタジアム by KYOCERA 2021 年入場者数】

J2リーグ				
節	試合日	対戦相手	入場者数 (人)	備考 (入場制限)
第1節	3月7日(日) 14:00	松本山雅FC	6,556	上限 10,000 人
第4節	3月21日(日) 14:00	ジュビロ磐田	8,024	↓
第6節	4月4日(日) 14:00	ジェフユナイテッド千葉	4,473	上限 5,000 人
第8節	3月17日(土) 14:00	ギラヴァンツ北九州	3,220	↓
第11節	5月1日(土) 14:00	愛媛FC	0	無観客
第13節	5月9日(日) 14:00	モンテディオ山形	0	↓
第14節	5月16日(日) 14:00	水戸ホーリーホック	3,654	上限 5,000 人
第16節	5月30日(日) 14:00	ヴァンフォーレ甲府	4,781	↓
第18節	6月13日(日) 14:00	ザスパクサツ群馬	4,139	↓
第20節	6月26日(土) 18:30	ファジアーノ岡山	4,669	↓
第21節	7月3日(土) 18:30	V・ファーレン長崎	4,466	↓
第23節	7月17日(土) 18:30	アルビレックス新潟	7,949	上限 10,000 人
第24節	8月9日(月) 18:30	FC町田ゼルビア	4,331	上限 5,000 人
第27節	8月28日(土) 18:30	東京ヴェルディ	4,111	↓
第29節	9月11日(土) 18:34	FC琉球	4,405	↓
第31節	9月25日(土) 18:33	栃木SC	4,703	↓
第33節	10月10日(日) 14:03	SC相模原	5,911	上限 10,000 人
第35節	10月24日(日) 14:03	レノファ山口FC	6,432	↓
第37節	11月3日(水) 14:03	大宮アルディージャ	7,907	上限 10,800 人
第39節	11月14日(日) 14:03	ブラウブリッツ秋田	9,900	↓
第42節	12月5日(日) 13:04	ツエーゲン金沢	9,608	↓
2021 年度 合計		21 試合	109,239	平均 5,201 人



@かめコレ

(3) 近年のスポーツニーズへの対応

- ・近年の新たなスポーツニーズ等に対応するため、森のステーションかめおかとして、交流会館内にスポーツクライミング施設「カメロックス」や宿泊施設「鳥の巣ロッジ」等の整備を進めてきた。
- ・令和4年4月から指定管理者により運用を活性化し、多目的運動場やバーベキュー場などを備えた「保津川水辺公園」や、桂川の舟運における歴史が学べ、川辺を活かしたアクティビティが楽しめる「川の駅・亀岡水辺公園」により、自然の資源を活用する取組を進めている。
- ・近年「七谷川野外活動センター」のキャンプ場を整備したほか、今後においてもフットサルやスケートボード専用スペースの整備について計画を進め、新たなスポーツニーズへの対応を視野に入れ取り組む。

【スポーツクライミング】

名 称	スポーツクライミング施設「カメロックス」
供用開始	令和2年4月
施設概要	交流会館の玄関ホールにボルダリングウォール・トップロープウォールを設置したスポーツクライミング施設。

(利用状況)

年 度	利用者数
令和2年度	2,199 人
令和3年度 12月まで	1,526 人

【キャンプ】

名 称	宿泊施設「鳥の巣ロッジ」
供用開始	平成30年7月
施設概要	交流会館で自然を満喫できる、コテージやキャンプサイトなどを設置した、デイキャンプも可能な宿泊施設。

(利用状況)

年 度	件 数	人 数
平成30年度	126 件	580 人
令和元年度	396 件	1,672 人
令和2年度	442 件	1,667 人
令和3年度 12月まで	526 件	2,130 人

出典) 亀岡市資料

(4) 健康増進関連計画の現状

- ・本構想と関わりがあると考えられる本市の各種計画について、その特徴及び健康・スポーツに関する取組、目標値等について抜粋・整理すると、次のようになっている。

関連計画	特徴、スポーツに関わる目標数
かめおか健康プラン 21 (2016－2025)	【特徴】 ・栄養・食生活、身体活動・運動、休養・こころの健康、タバコ、歯・口腔の健康、健康管理の6領域による取組 【関連する目標値等】 ・65歳以上で週3回以上、外出する人の割合 ・“ロコモ”を知っている人の割合
第2期保健事業実施計画 (データヘルス計画) (2018－2023)	【特徴】 ・健康・医療情報を活用してPDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業を実施 【関連する目標値等】 ・(スポーツ関連の目標項目なし)
第2期亀岡市子ども・子育て支援事業計画 (2020－2024)	【特徴】 ・「市民の宝『かめおかっこ』の笑顔あふれるやさしいまち」を理念に6つの基本目標 【関連する目標値等】 ・(スポーツ関連の目標項目なし)
第3期亀岡市地域福祉計画 (2021－2025)	【特徴】 ・「認めあい、支えあい、助け合える ずっと住みたい笑顔のまちづくり」を理念に3つの基本目標 【関連する目標値等】 ・(スポーツ関連の目標項目なし)
亀岡市いきいき長寿プラン (2021－2023)	【特徴】 ・「住んでよかった亀岡、高齢になっても楽しい亀岡」理念に4つの基本目標 【関連する目標値等】 ・生涯スポーツ事業参加者数

(5) 近隣コンペティター（競合・連携相手）の状況

- ・京都府の「京都スタジアムを中核とするスポーツ&ウェルネス構想」でエリアを同じくする南丹市、京丹波町における主要なスポーツ・自然体験資源としては、次のようなものがある。

資源名		概 要
南丹市	京都丹波高原国定公園 芦生の里	広大な京都丹波高原国定公園内にあって、由良川の源流に位置し、希少な動植物の生息地。
	南丹市八木西地区 コミュニティ公園	テニスコート(砂入り人工芝)2面、ゲートボール場、多目的グラウンド(野球、サッカー、ソフトボールほか)
	南丹市大堰川緑地公園	多目的グラウンド、多目的広場、テニスコート、ゲートボール場、親水公園など。
	南丹市日吉総合運動広場	愛称「ユースランド」。ミーティングルームのある体育館、テニスコート4面、多目的グラウンド等。
	南丹市 八木スポーツ・フォア・オール	ロッカールーム、シャワー室、浴室など完備。3階のトレーニングルームでは会議や各種催し物もできる。
	スプリングスひよし	温水プール、体育館、温泉、レストラン等を併設したスポーツ・リラクゼーション施設。
	サイクリングターミナル	絶好のサイクリングコースである日吉ダム近くで、レンタサイクル等あり。
	ダムパーク・大野 (大野ダム公園)	天然芝のパターゴルフ場、ダム湖面ボート乗り場などの多目的公園。周辺にはビジターセンターやレストラン等。
	美山町自然文化村 「河鹿荘」	清流美山川の畔、宿泊施設、レストラン、運動場、キャンプ場、屋内ゲートボール場、創作体験館等備えた複合施設。
京丹波町	丹波自然運動公園	体育館、テニスコート、トレーニングセンター等豊富なスポーツ施設を有し、大会や合宿等に利用される。
	森の京都 味夢の里	木の香りとぬくもりが感じられる癒しの空間。京丹波マルシェ、京丹波ステーション、丹波里山レストラン等。
	和知グラウンド	総面積14,200㎡。1周150mのトラック、野球2面がとれる多目的グラウンド等。
	グリーンランドみずほ (総合運動公園)	広大な敷地にスポーツ施設をはじめ、宿泊施設・レストランあり。春は桜並木、秋は銀杏並木の景観。
	和知B&G海洋センタープール	和知地域東部、国道27号沿線になり、町営グラウンド・体育館に隣接。由良川にはカヌー艇庫もあり。

出典) 各自治体ホームページ等から整理

4 亀岡市の主なスポーツ事業やこれまでの表彰者

(1) 亀岡市の主なスポーツ・競技大会

・近年、亀岡市が主催、あるいは後援したスポーツ・競技大会としては次のようなものがある。令和元（2019）年以降はコロナの影響で縮小・中止されたものもある。

① 亀岡市主催のスポーツ・競技大会

	事業の基本情報			その他
	事業名	開催日時	参加人数	
1	京都亀岡 ハーフマラソン大会	12月開催 年に1回	平成30年度 3,731人（走者） 令和元年度 3,418人（走者） 令和2年度 中止 令和3年度 中止	実行委員会 主催
2	市民駅伝	2月開催 年に1回	平成30年度 54チーム 令和元年度 40チーム 令和2年度 中止 令和3年度 中止	（公財） 亀岡市スポーツ協会 主催
3	かめおか 市民スポーツ フェスティバル	10月開催 年に1回	平成30年度 429人 令和元年度 230人 令和2年度 中止 令和3年度 中止	（公財） 亀岡市スポーツ協会 主催
4	ふれあい スポーツ・デー	毎月 第4土曜日 （第3土曜日 の場合あり）	令和元年度 592人（全11回） 令和2年度 368人（全8回） 令和3年度 176人（全5回）	亀岡市 スポーツ推進員 協議会 主催
5	ふれあいハイキング	年1回	平成30年度 17人 令和元年度 10人 令和2年度 中止 令和3年度 中止	亀岡市 スポーツ推進員 協議会 主催
6	市民プールの開設	7～8月 20日間	平成30年度 1,512人 令和元年度 1,606人 令和2年度 中止 令和3年度 中止	市 主催
7	平和祭 市民スポーツ大会	6月開催 年に1回	平成30年度 5,196人 令和元年度 5,235人 令和2年度 1,832人 令和3年度 1,431人	市・（公財） 亀岡市スポーツ協会 共催 競技毎に規模縮小し実施、 中止の競技もあり（R2・R3）
8	生涯スポーツデー	月に1回	令和元年度 553人 令和2年度 272人（全7回） 令和3年度 281人（全9回）	（公財） 亀岡市スポーツ協会 主催

出典）亀岡市生涯スポーツ課

② 亀岡市が後援したスポーツ及び関連イベント

【令和元年度】

開催日	事業名	開催場所	参加人数	主催者	備考
3月3日～ 4月14日	第41回亀岡市長旗争奪 少年野球大会	運動公園野球場、さく ら公園多目的広場他	944人	西京都少年野球振興 会	
4月28日	第15回亀岡市ラグビー 祭	運動公園競技場	900人	亀岡市ラグビーフッ トボール協会	
5月3日	亀岡保津川ライオンズク ラブ杯女子交流大会	月読橋球技場	150人	亀岡市ソフトボール 協会	
5月12日	第21回京都府知事杯ペ タंक大会	国際広場球技場	90人	京都府ペタंक・プー ル連盟	
6月3日	第26回「クリーン登山」 牛松山	牛松山登山道	75人	京都・亀岡山の会	
7月21日	スカイランニング牛松山 パーティカル	牛松山ハイキング道	56人	(一社)日本スカイラ ンニング協会	
7月13日 ～14日	第1回とんがり CUP	京都先端科学大学	400人	京都先端科学大学	
8月20日 ～22日	同世代から学ぶ実践型コ ミュニケーション講習会	京都先端科学大学	0人	京都府トライアスロ ン協会	
8月17日 ～18日	第23回亀岡招待少年サ ッカー	運動公園競技場	320人	亀岡市サッカー協会	
10月19日	第13回京都府体操祭兼 第22回かめおか体操祭	京都先端科学大学	800人	京都体操協会	
10月19日 ～26日	秋の登山教室	森のステーション 音羽山	15人	京都・亀岡山の会	
10月27日	第14回亀岡市ラグビー フェスティバル	運動公園競技場	900人	亀岡市ラグビーフッ トボール協会	
10月14日	第34回皓友館選手権大 会	南つつじヶ丘小学校	100人	日本空手道陪助会皓 友館	
11月16日	令和元年度京都府高等学 校柔道選手権大会(団体)	運動公園体育館	200人	府高等学校体育連盟 柔道専門部、亀岡市柔 道連盟	
12月1日	第5回ジュニアクリケッ ト大会亀岡市長杯スター ズカップ	京都先端科学大学	36人	関西クリケット協会	
12月15日	2019年JPSS リーダー 育成講習会②	京都先端科学大学	37人	保津川トライアスロ ン倶楽部	
12月22日	スカイランニング牛松山 パーティカル	牛松山ハイキング道	94人	(一社)日本スカイラ ンニング協会	
2月2日	第45回市民駅伝競走大 会	保津文化センター スタート・ゴール	500人	(公財)亀岡市スポー ツ協会	
3月20日	第4回京都ふれ eye ブラ インドマラソン	サンガスタジアム by KYOCERA		(一財)角谷建燿知財 団	※
3月27日	サッカー国際親善試合 U-23日本代表対U-23南ア フリカ代表	サンガスタジアム by KYOCERA		(公財)日本サッカー 協会	※

備考の「※」は「新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止」

【令和２年度】

開催日	事業名	開催場所	参加人数	主催者	備考
4月26日	第16回 亀岡市ラグビー祭	サンガスタジアム by KYOCERA		亀岡市ラグビーフットボール協会	※
6月7日	第27回クリーン登山	牛松山登山道		京都・亀岡山の会	※
10月4日～ 11月15日	第42回亀岡市長旗争奪 少年野球大会	運動公園野球場、さくら公園多目的広場他	1,080人	西京都少年野球振興会	
10月19日 ～26日	1日サッカー教室	安詳小学校	12人	アミティエ・スポーツクラブ	
12月29日	皇后杯 JFA 第42回全日本女子サッカー選手権	サンガスタジアム by KYOCERA	2,762人	(公財)日本サッカー協会	
3月6日	第3回スピードジャパン カップ/第1回スピード ユース日本選手権亀岡大会	グラビティリサーチ サンガスタジアム by KYOCERA	100人	(公社)日本山岳・スピードクライミング協会	
3月7日～ 4月11日	第42回亀岡市長旗争奪 少年野球大会	運動公園野球場、さくら公園多目的広場他	1,080人	西京都少年野球振興会	
3月27日	2020年度指導者(親)の 応援フォーラム①	サンガスタジアム by KYOCERA	20人	JPSS マルチスポーツプロジェクト	
3月28日	京都スタジアム e スポーツ選手権	サンガスタジアム by KYOCERA	150人	合同会社ビバ&サンガ	

備考の「※」は「新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止」

【令和３年度】

開催日	事業名	開催場所	参加人数	主催者	備考
4月25日	第17回亀岡市ラグビー祭	サンガスタジアム by KYOCERA		亀岡市ラグビーフットボール協会	※
4月29日	保津川サーキット第2戦 ヒルクライムラン	牛松山		(一社)保津川トライアスロン倶楽部	※
5月1日	亀岡保津川ライオンズクラブ杯 亀岡女子交流大会 第18回中学生の部 第22回高校・一般の部	月読橋球技場		亀岡市ソフトボール協会	※
7月3日	RunbikeAcademy 杯 亀岡大会	運動公園第9駐車場	220人	RunbikeAcademy	
7月14日	MS&AD カップ2021な でしこジャパン国際親善 試合	サンガスタジアム by KYOCERA	5,000人	(一社)京都府サッカー協会	
8月28日 ～29日	第25回亀岡招待少年サッカー大会	運動公園競技場		亀岡市サッカー協会	※
8月27日 ～30日	第18回全日本一般男子 ソフトボール大会	運動公園野球場、 月読橋競技場		亀岡市ソフトボール協会	※
9月12日	Sfidarecric(スフィダー レクリット)	サンガスタジアム 西側駐車場	108人	(一社)京都車連	
10月3日	BATTLMIXTURE ブレイキン バトル	サンガスタジアム by KYOCERA	350人	(一社)BODYCARNIVAL	
10月25日	サッカーリフティングフリースタイルスクール	千代川小学校体育館	4人	サッカーリフティングフリースタイルスクール	

【令和3年度】(続き)

開催日	事業名	開催場所	参加人数	主催者	備考
10月3日	第15回亀岡市ラグビーフェスティバル	運動公園競技場		亀岡市ラグビーフットボール協会	※
10月2日～3日	RunbikeAcademy 杯 亀岡大会	運動公園第9駐車場	180人	RunbikeAcademy	
10月9日	自転車競技会	亀岡トライアルランド	40人	龍野マウンテンバイク協会	
11月21日	第14回京都体操祭～GYMSBAT21～兼第23回かめおか体操祭	かめきたサンガ広場	80人	京都体操祭	
12月12日	ネイチャレ倶楽部in亀岡 プレ大会	牛松山	157人	ネイチャレ倶楽部 in 実行委員会	
12月19日	第17回亀岡市ラグビー祭	サンガスタジアム by KYOCERA	800人	亀岡市ラグビーフットボール協会	
12月29日	皇后杯 JFA 第43回全日本女子サッカー選手権 (準々決勝)	サンガスタジアム by KYOCERA	706人	(公財)日本サッカー協会	
1月29日	第1回キッズチェイスタグ日本選手権	サンガスタジアム by KYOCERA	680人	株式会社PKM	
2月6日	令和3年度京のスポーツ夢づくり事業「スポーツキッズ・アーバンスポーツ体験会」	サンガスタジアム by KYOCERA		京都府	※
2月27日	皇后杯 JFA 第43回全日本女子サッカー選手権 (決勝)	サンガスタジアム by KYOCERA	1,375人	(公財)日本サッカー協会	

備考の「※」は「新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止」

(2) 亀岡市の主なスポーツ分野表彰者

① 市民最高栄誉賞

選考基準:「スポーツを通じて心身を向上させ、文化・国籍など様々な違いを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でより良い世界の実現に貢献すること」。この理念のもと、世界中の人々が「平和」や「地球環境」についても考える機会である「オリンピック・パラリンピック競技大会」において、多大なる貢献、著しく優れた成績を収め、市民に感動と勇気を与えた者若しくは団体。

①オリンピック・パラリンピック競技大会で優秀な成績を収めた者又は団体。

(表彰者) 荒 賀 龍 太 郎 氏

第32回オリンピック競技大会(2020/東京)
空手男子組手 75 kg超級 銅メダリスト

(表彰日) 令和3年9月14日

② 市長特別賞

選考基準：体育・スポーツ分野で、市民及び国民に広く感動と勇気を与えた者若しくは団体。

- ①世界選手権等(スポーツ界に認知された大会)で優秀な成績を収めた者及び団体と、その指導・助言にあたった指導者等。ただし、親善や強化を目的とする大会や遠征等の国際交流大会は除く。
- ②スポーツ医・科学の分野で、スポーツの発展に、顕著な功績のあった者。(スポーツ医・科学とは、体力「筋力、全身持久力等」・スポーツスキル・スポーツ心理・栄養・コンディショニング・スポーツ医学等)

表彰日	氏名(敬称略)	実 績
平成 5 年 9 月 5 日	藤村信子	'93 北海道マラソン優勝
平成 6 年 2 月 27 日	高橋香織	第 48 回国民体育大会秋季大会少年女子共通 3000m 優勝
平成 11 年 1 月 24 日	主原慶治	第 1 回世界大学空手道選手権大会(フランス) 個人戦男子組手 80kg 以下準優勝
平成 12 年 2 月 27 日	大槻秧司	昭和 57 年 4 月～昭和 59 年 4 月 亀岡市体育協会副会長 昭和 59 年 4 月～平成 11 年 3 月 亀岡市体育協会会長 平成 11 年 4 月～ 亀岡市体育協会名誉副会長
平成 16 年 12 月 9 日	荒賀知子	第 17 回世界空手道選手権大会女子個人組手 53kg 級優勝
平成 18 年 12 月 28 日	荒賀知子	第 15 回アジア競技大会空手組手女子 53kg 級優勝
平成 19 年 1 月 29 日	十倉みゆき (監督)	第 25 回全国都道府県対抗女子駅伝優勝
平成 19 年 1 月 29 日	比護信子 (コーチ)	第 25 回全国都道府県対抗女子駅伝優勝
平成 19 年 1 月 29 日	樋口紀子	第 25 回全国都道府県対抗女子駅伝優勝
平成 20 年 2 月 4 日	十倉みゆき (監督)	第 26 回全国都道府県対抗女子駅伝優勝(大会新記録)
平成 20 年 2 月 4 日	比護信子 (コーチ)	第 26 回全国都道府県対抗女子駅伝優勝(大会新記録)
平成 20 年 2 月 4 日	樋口紀子	第 26 回全国都道府県対抗女子駅伝優勝(大会新記録) 第 5 回全国大学女子選抜駅伝優勝(大会新記録)
平成 20 年 2 月 4 日	西尾佳子	INAS-FID World Swimming Championships2007 背泳ぎ 200m 優勝(日本新記録)・背泳ぎ 100m 優勝

平成 20 年 9 月 1 日	荒賀龍太郎	平成 18・19・20 年度全国高等学校総合体育大会空手道 男子個人組手優勝 （3連覇）
平成 25 年 8 月 9 日	寺原万留々	第 1 回世界男子・女子クラシックパワーリフティング 選手権大会ジュニア女子 63Kg 級 総合優勝
平成 26 年 10 月 24 日	荒賀龍太郎	第 17 回アジア競技大会(2014 仁川) 空手男子組手 84Kg 級優勝
平成 26 年 12 月 3 日	谷竜一	第 22 回世界空手道選手権大会組手男子 75kg 級優勝
平成 28 年 4 月 28 日	中川奈穂	ミスダンスドリルチームインターナショナル in USA 2016 総合優勝
平成 28 年 11 月 25 日	荒賀龍太郎	第23回世界空手道選手権大会(オーストリア・リンツ開催) 男 子個人組手 84Kg 級優勝



1 計画の視点

(1) 既存資源の効果的な活用による地域活性化

- ・市内には、保津川をはじめとする豊かな自然を背景として、ラフティングやパラグライダー、乗馬、キャンプなどのアウトドアスポーツの場や体験機会を提供する数多くの民間事業者の拠点・フィールドがある。
- ・現在、これらの事業者の活動やサービス提供は十分に連携のとれたものとはなっておらず、来訪者の多くはそれぞれの目的に合わせた短時間滞在・日帰りに偏っている。また、交流人口は、三大観光（湯の花温泉、嵯峨野トロッコ列車、保津川下り）に依存し、観光客の季節変動が大きい。
- ・自然や府立京都スタジアム、スポーツ施設、民間アウトドア事業者などと三大観光をはじめとする、既存の資源との連携を図り、来訪者に多様で魅力あるサービスを効果的に提供することで、ボリュームゾーンの拡大と季節性の平準化を図ることが必要である。

(2) アウトドアスポーツマルチ都市としての情報発信

- ・スポーツに対するイメージを「義務的で辛い体育」から「楽しいエンターテインメント」へと意識を変革し、そのイメージを体現できる「アウトドアスポーツマルチ都市」として、インドアスポーツも含めた魅力をシティブランドとして、構築することが期待される。
- ・これらの、情報のデリバリー（どう届けるか）性を重視していかなければならない中、デジタルマーケティングやインフルエンサー（世間に与える影響力が大きい行動を行う人）と連携するなど、来訪者をリピーター化させるコンテンツをつくり続け、効果的に情報発信をする方法・体制・手法を構築しなければならない。

(3) 構想推進の中核的主体の発見・育成

- ・この構想を実現していくためには、意欲、推進力と情熱を持ち、活動を主体的に推進するリーダー的な人財が必要不可欠である。特に、そのような人財自身が精通しているアウトドアスポーツへの知見や、スポーツの持つ魅力を伝え拡げていく人材を地元から発掘・育成し「人財化」していくことが求められる。また、こうした人財を中心として、関係機関が力を結集できる体制づくりが期待される。
- ・活動のリーダー的主体の一例としては、地域に縁（ゆかり）のある学生アスリートや、スポーツを学問として学ぶ学生をネットワーク化し、シンボルアスリートとなる人財

を育む環境をつくっていくことが重要である。このほか、セカンドキャリアとして取り組む、あるいは地元スポーツに造詣の深い企業家・リタイアメント層がマネジメント力やノウハウを生かして取り組むといったケースが想定される。

(4) 「ささえる」「応援する」人財の育成

- ・スポーツを「する」人を「ささえる」「応援する」人財は、スポーツ活動やイベント・大会のボランティアや審判員、医科学等の知見をもって競技者を支える専門家、アスリートのキャリア形成のサポーター、団体やチームの経営・運営者、指導者・コーチ、スポーツ事業や施設を運営する民間事業者、スポーツチームのサポーターなど多岐にわたる。本市のスポーツ活動の充実には、こうした人財の育成・確保が必要不可欠である。

(5) アスリートの育成と市民競技力の向上

- ・アスリートの姿は、「する」人はもちろん、「みる」「ささえる」「応援する」人にも感動を与え、スポーツに取り組むきっかけや活動の活力にもつながる。また地元出身者や縁（ゆかり）のあるアスリートの存在は、地域の知名度の向上や地域スポーツのシンボルにもなり得る。
- ・子どもから若い世代、シニア世代、障がいのある人などが、それぞれのライフステージにおいてスポーツを楽しみながら、意欲をもって、体力・競技力向上に取り組むことができる環境づくりと、トップアスリートがこのまちを活動の拠点としたくなる環境づくりが必要である。

(6) 周辺自治体・施設との連携

- ・隣接する京都市は、我が国屈指の国際観光都市である。また、北部の南丹市・京丹波町は、京都府のスポーツ&ウェルネス構想で連携した交流都市圏と位置付けられており、こうした近隣都市にも特色あるスポーツ・アウトドアに適した事業者と施設が集積している。
- ・これらのエリア資源を活用・連携し、それぞれのエリアの強み（ユニーク）を活かして相乗効果を図ることで、より多様なスポーツ・アウトドアニーズに対応することが可能であり、エリア全体としての魅力を高めることが期待される。このため、京都府や関係自治体、市外の民間事業者等との連携を図っていくことが求められる。

(7) 発展的な取組の検討

- ・目的を共有し、今すぐにでも取り組むことができる、あるいは取り組むべきことから、将来に向けて布石を打つべきことまで、取組段階に応じた戦略・戦術を明確にし、検討する必要がある。

- ・特に、将来的な展望・期待につなげていくためには、上記パーパス（目的）・ビジョンからの戦略・戦術を明確に示すことが重要である。

（目標例）

短期：訪問者や市民の情報発信によるスポーツ拠点イメージの定着

中期：アウトドアスポーツや関連分野における企業投資の誘導

長期：市民QOL向上、医療費抑制・削減や関連税収拡大による行財政への貢献

（８）社会動向等への対応

- ・2020年のはじめに、亀岡市に府立京都スタジアムが完成し、まちが新たな一步を踏み出し、そのシナジーが期待された。しかし新型コロナウイルス感染症の初感染者が同時期に確認されて以後、我が国でも感染が拡大し、人の移動制限や大規模集客イベントの中止、テレワークの一般化など、社会生活を変革させた。（2020年1月に日本初の感染者確認）
- ・スポーツ分野においても同様に、東京2020オリンピック・パラリンピックは、1年の延期および無観客開催、社会体育から身近な健康維持運動さえも制限される環境となった。
- ・幾度かの拡大期を経ながら、ワクチン接種の進展もある中ではあるが、完全な克服までには時間を要する様相であり、また今後もコロナウイルスの変異や新たな感染症が発生する可能性がある。スポーツ・アウトドア活動においても今回の経験を次に活かし、存在意義や役割を示し共有していくことが不可欠である。
- ・また、スポーツにおいてもSDGsの概念を取り入れ、DX（デジタルによる変革）を推進していくことが世界の潮流となっていることを踏まえ、国等の方針に則した積極的な対応を図っていかなければならない。



@かめコレ

2 将来目標

(1) 将来像

スポーツで人生を豊かに！それが亀岡スタイル ～ エンジョイ『K-K i s s ・スポーツ』 ～

- ・豊かな自然、先進的なスポーツ拠点、活力あるアウトドアレジャー・サービスなど、さまざまなスポーツ資源がお互いに協力し合ってまち全体がスポーツを楽しむフィールドとなっている亀岡市。このまちに暮らし、集い、訪れる人が、日々の生活の中で、あるいは日常を離れたリフレッシュの場としてスポーツとふれあい、人生をより楽しく、健康で生き生きとしたものにする。それが亀岡市のミッションである。
- ・亀岡市がアウトドアスポーツなどのハブ（拠点）となり、京都サンガF.C.が躍動するまちとして、スポーツを通じて地域が元気になる他に類を見ない、亀岡オリジナルのウェルビーイング（幸福）活性化モデルをつくる。

※これらまとめ、

「亀岡スタイル」－「健康で」「生き生きと」「幸せづくり」「それを担うのが」・「スポーツ」
「K」－「K」「i」「s」「s」・「スポーツ」

◎ K－K i s s ・スポーツ（ケーキッス・スポーツ）を振興する。

(2) 具体的な目標

① スポーツが人生を楽しく豊かにするものとして定着している

- ・市民や来訪者がスポーツに対して「健康のためにやらされる」「つらい」ものではなく、「気持ちを高揚させ、心身を健やかにしてくれる、楽しいエンターテインメント」と感じ、「する、みる、支える」といったスポーツを通じた人々の交流の場となっている。幸福を追求する当たり前の権利が阻害されることなく、ポジティブで新しいスポーツ文化、ウェルビーイング環境が根づいている。

② 市民・来訪者が活発にアウトドアスポーツに参加し幸福を感じている

- ・「亀岡は、アウトドアを中心としたさまざまなスポーツが楽しめるまち」というイメージが浸透し、市民が日常生活の中で積極的にアウトドアを含めたさまざまなスポーツを楽しみ、またアウトドアスポーツのフィールドを求める来訪者はここに集まり、新たな仲間づくりや交流も生まれている。また、アウトドアスポーツをはじめ、スポーツ資源を活用した地域経済の発展とウェルビーイングの向上につながる循環が図られている。

③ スポーツを通じて市民のQOL（生活の質）が向上している

- ・科学的根拠に基づくスポーツ活動やトレーニング、正しい健康マネジメントの方法と考え方の導入、健康やスポーツリテラシーの啓発など、このまちでスポーツを実践することを通じて、市民や交流者がそれぞれのライフステージに応じた、身体も、こころも、健康で社会生活において幸福な状態を維持することができている。



1 ビジョン実現に向けた提案施策

(1) まるごとスポーツネットワークの推進

- ・体験プログラムやメニューづくり、連携イベントの開催、人材育成、情報発信など、アウトドアスポーツの多様な魅力を高めるとともに、スポーツツーリズムやマルチアウトドアスポーツの拠点として、民間活力を生かしたまち全体の魅力向上につなげるため、事業者やスポーツ施設・団体、大学、行政など、関係機関による交流・ネットワークの仕組や機会を創出・強化する。

【取組目標】

- ▶ 亀岡ゆかりのさまざまなスポーツで活躍するアスリートへの積極的支援
- ▶ QOLを高める健康プログラムづくりや健康マネジメント人材の育成研修の実施における、アウトドア関連事業者・大学等との連携
- ▶ ニーズの変化に対応した新たなアウトドアスポーツ施設・企業の誘致・充実
- ▶ 事業者ニーズを取り入れたアウトドアスポーツの活動環境・インフラ基盤の整備
- ▶ アウトドアスポーツで自然環境を学ぶ機会を、修学旅行とあわせて提供するなど魅力あるスポーツツーリズムの推進
- ▶ 体験プログラムづくりやイベント・スポーツツーリズム商品企画、総合的な情報発信など、アウトドアスポーツの魅力を高める関係機関との連携強化
- ▶ スポーツ関連事業者等とのネットワーク化による、民間活力によるスポーツ施設の誘致

(2) 府立京都スタジアムの活用

- ・年間40万人の交流人口の創出が期待される「府立京都スタジアム（サンガスタジアム by KYOCERA）」や周辺地域は、競技や観戦するだけの空間ではなく、サッカー以外の楽しみや賑わいを創出する「まるごとスタジアム」のシンボル拠点として位置づけ、スタジアムがあるまちとして、市民や子どものシビックプライドを育む取組を促進する。市民、まちぐるみで『京都サンガF.C.』及び府立京都スタジアムを応援する気持ちの醸成と体制を構築する。また、市民や市内事業者との連携により、新たなビジネスを展開・創出する空間として活用する。

【取組目標】

- ▶ 試合前後、または試合のない日程におけるスタジアム周辺の有効活用
- ▶ 『京都サンガF.C.』の躍進をアフターコロナにおける貴重なチャンスとする、シティプロモーションの展開
- ▶ 府立京都スタジアムが市民や子どもたちにとってシンボルとなり、シビックプライドにつながるスタジアムを体感する機会創出

- ▶ 府立京都スタジアム及び『京都サンガ F.C.』との地域交流活動の創出
- ▶ ボルダリング・スポーツクライミングなど施設を活用した取組の強化

(3) まるごとスポーツ情報の発信

- ・ 一体的な連携体制のもと、より多くの人々に亀岡市のアウトドアスポーツ情報を効果的に届けるため、デジタルマーケティングに取り組み、総合的・戦略的な情報発信を強化する。短期的には、情報発信力を持った本市出身のアスリートやインフルエンサーなどとの連携を図る。また、市民や来訪者による情報発信の仕掛けづくりにより、情報の拡散力を高める。
- ・ 新たなビジター（訪問者）獲得のため、「観光」「環境」「歴史」「食」「安全（セーフコミュニティ）」など関連する分野との連携、また、隣接する京都市や南丹地域（南丹市・京丹波町）、Ｊリーグホームタウン自治体など関わりのある都市・地域との連携により、幅広い情報発信を図る。

【取組目標】

- ▶ 来訪者が主体的に SNS 等で発信したくなる、映像映えする撮影スポットなどを紹介するコンテンツづくり
- ▶ 専門家や SNS などで影響力をもつ人物の招待ツアー、オンラインツアー等の企画
- ▶ 情報発信におけるデジタルネイティブ世代（学生等）との連携、中高年以上の世代のデジタルデバйд解消
- ▶ 「観光×スポーツ」によるスポーツツーリズム、「隣接市×亀岡市」による広域スポーツイベントなど、新たに訪問するきっかけとなる魅力的な連携の推進
- ▶ 年間40万人の交流人口

(4) 地域資源を活かしたスポーツ文化の定着

- ・ 亀岡市において、アウトドアをはじめとするスポーツ活動が、市民の健康増進、医療費の抑制・削減、賑わいの創出、来訪者との交流などをもたらす発想の転換により、新しいアイデアや取組を生み出し、さまざまな面でまちに貢献する効果をもたらす。そして、スポーツが人生を豊かにする楽しいエンターテインメントであることを文化として定着させる。
- ・ そのためには、市民が自然など地域資源を活用し、トレッキングやシャワークライミングなどのアウトドアスポーツにふれる機会を拡充するとともに、大学や研究機関と連携し、スポーツが心身の健康づくりにつながることを理解してもらうための研究やテストに取り組む。それらの成果や科学的根拠に基づく情報発信、PRを行い、市民とスポーツとのよりよい関係をつくり上げる。
- ・ また、市民のスポーツへの関心を高めるとともに、亀岡市で行う（行われる）スポーツへの愛着の醸成と応援体制をつくり、観戦スポーツの誘致と充実化を図り、市外からの誘客につなげる。

【取組目標】

- ▶ 「森のステーションかめおか」「七谷川野外活動センター」の活用をはじめとする、市民向け体験ツアーなど、市民のアウトドア体験機会の充実
- ▶ 大学や民間企業専門家と市民の連携による、スポーツを通じた健康づくりに関する研究、意識啓発
- ▶ 「川の駅・亀岡水辺公園」「保津川水辺公園」をはじめとする、市域の広大な水辺の活用を視野にいたし、キャンプなどアウトドアも含めた多目的広場やスポーツ施設の充実
- ▶ 保津川でのカヌーやラフティング、サップなど自然資源を活用したリバーアクティビティの機会創出
- ▶ スポーツホスピタリティ（観戦チケットと飲食や観光リソース等とを組み合わせたサービス）の涵養
- ▶ パラグライダー・ハンググライダー・熱気球など、スカイスポーツの魅力を活かしたまちづくりの推進
- ▶ ボルダリングやeスポーツをはじめ、各種スポーツ競技における全国規模等のスポーツ大会、スポーツコンベンションの誘致活動の推進
- ▶ 京都サンガ F.C. のホームタウン、そしてホームスタジアムのあるまちとしての地域・市民が一体となった応援活動の推進

（５）ニーズに応じたスポーツ施設・基盤の整備

- ・ 亀岡市において、スポーツを誰もが安全・安心に楽しむことができるよう、ユニバーサル視点も取り入れた、施設の適切な管理が必要である。
- ・ このため、既存スポーツ施設・周辺環境については、適切な維持管理及び計画的な整備・充実を進めていく必要がある。
- ・ また、都市計画公園との連携を含め、ニーズの多様化や変化に対応した多様なスポーツ施設の機能強化や新設、関係機関等実施事業の誘致を効果的なアプローチで推進する。

【取組目標】

- ▶ サッカーやスポーツクライミングの国際大会誘致など、府立京都スタジアムの相乗効果が図れる環境整備など、京都スタジアムに関連したまちづくりの推進
- ▶ 既存スポーツ施設及び周辺環境の計画的な維持管理
- ▶ 市民及び来訪者のスポーツニーズの把握
- ▶ トレッキングやサイクリング、ランニングのコース設定・整備など、市民及び来訪者のニーズを踏まえた新たなスポーツ機能の整備や関連機関実施事業の誘致
- ▶ スケートボードやBMXなど、アーバンスポーツなども視野に入れ、亀岡で萌芽するアスリートの活動の場の整備
- ▶ 既存スポーツ施設の利活用の推進

1 関係機関の連携強化

- ・本構想の推進にあたっては、亀岡市のアウトドアスポーツに関する個性や事業者の実情を把握し、活動の主体である事業者をはじめ、スポーツ団体、経済団体、地元において健康・スポーツに関連する学部を有する京都先端科学大学をはじめとする大学・研究機関、市民、行政等がそれぞれの役割を果たしつつ、環境変化に柔軟かつ迅速に対応していくことが求められる。
- ・本構想及びこれを実現するために展開するさまざまな取組について、事業者等の理解と協力を得た上で、関係者が連携して取り組む。
- ・京都府が位置付ける「スポーツ&ウェルネス構想」とは親和性が高いことから、こうした京都府等の取組と効果的に連携・活用する。

【連携が想定される主体等】

- 産官学連携（京都サンガF.C.、大学・研究機関、アウトドアスポーツ関連事業者、スポーツ関連団体、観光等関連事業者、経済団体、京都企業、行政等）
- 京都府及び近隣地域（南丹市、京丹波町）、Jリーグホストタウン、サッカースタジアム立地都市等

2 構想推進体制の確立

- ・アウトドアをはじめとするスポーツ活動を促進、かつ地域活性化につなげることで持続可能にしていくため、亀岡市独自のスポーツコミッション（組織・機能）づくりについて検討する。
- ・スポーツコミッションに期待する役割は、アウトドアスポーツの市民への普及啓発、イベントやスポーツツーリズムの企画運営、関係機関の調整による本構想の総合的・戦略的な推進と多岐にわたる。但し、これが行政内部で運営されるものであれば、従来のスポーツ振興の枠を超えることは難しいと考えられる。このため、組織または機能においては、スポーツ関連団体、民間企業、大学、行政など、目的を同じくする機関が連携して取り組むことが求められる。
- ・また、そこで必要とされる人材（構成メンバー）としては、亀岡市に愛着や誇りを持ち、このまちを良くしたい思いを持つ人、そしてスポーツを従来からの限定的な枠組みでとらず、関連分野や多様な地域、人とのコラボレーションに柔軟かつ積極的な思考を持った人が関わるのが望ましい。スポーツに限らず、亀岡で生まれ、今は別の地域で暮らしているが、亀岡に誇りと愛情を持ち、尚且つまちの外から見た冷静な判断・提案のできる人材などが想定される。

- ・なお、行政内部においても、本構想を総合的に企画・推進し、関係各課の横断的な連携を図るとともに、構想に対する職員の意識向上を図る。

【考えられるスポーツコミッションの想定】

設立の目的	・ 民間事業者等が中核となって、関係者が連携し、亀岡市のアウトドアスポーツを活かした総合的・主体的なまちづくり及び地域活性化を持続可能な形で推進する。
運営・協力体制	・ スポーツ団体、アウトドアスポーツ関連事業者、大学、観光など関連産業事業者、経済団体、企業、行政などが一体となって進める。
機 能	・ アウトドアスポーツに対する市民意識の普及啓発 ・ スポーツイベントやスポーツツーリズムの企画運営 ・ 国、京都府、近隣地域（南丹市、京丹波町）、Ｊリーグ関連都市など、関連する公的機関との連携・調整 ・ 上記の推進に向けた持続的なリーダーシップの発揮

（参考）スポーツコミッションとは

- ・ 地方公共団体、スポーツ団体、民間企業等が一体となり、スポーツによるまちづくり・地域活性化を推進していく組織の総称であって、以下の４要件を備えるもの。

【要件】

- ・ 地方公共団体、スポーツ団体（体協、総合型等）、民間企業（観光協会、商工団体、大学、観光産業、スポーツ産業等）などが一体として活動を行っていること。
- ・ 常設の組織であり、時限の組織でないこと。
- ・ スポーツツーリズムの推進やスポーツ合宿・キャンプの誘致など域外交流人口の拡大に向けたスポーツと地域資源を掛け合せたまちづくり・地域活性化のための活動を主要な活動の一つとしていること。
- ・ 単発の特定の大会・イベントの開催及びその付帯事業に特化せず、スポーツによる地域活性化に向けた幅広い活動を年間を通じて行っていること。

（スポーツ庁 web サイトより）

※上記はスポーツ庁としての定義であり、亀岡市が独自で考える場合、必ずしも必要条件ではない

3 施策の具体化に向けた取組の推進

- ・ 本構想で示す将来目標や施策の方向を施策・計画に展開していくため、施策及び推進体制の実行に向けた取組を継続して進める。
- ・ 将来目標に向けて、具体的な取組を短期・中期・長期といったタイムスケジュールを想定して、特に短期的に取り組むことが必要な施策・計画を重点的に検討する。

参考資料

1 かめおかまるごとスタジアム構想 策定委員会 委員名簿

氏 名	所属等	備 考
池浪 智也	侍・athlete 株式会社 代表取締役	
小川 雅洋	株式会社京都パープルサンガ 経営企画室長	
北口 洋	スポーツコミッション関西 事務局長	
高梨 泰彦	京都産業大学 現代社会学部 健康スポーツ社会学科 教授	委員長
田中 秀門	(一社)かめおかコンベンションビューロー 専務理事	オブザーバー 令和3年4月～
東原 文郎	京都先端科学大学 健康医療学部 准教授	
鳥山 恒夫	亀岡市市長公室 シティプロモーション担当室長 (内閣府地方創生人材支援制度派遣：㈱博報堂から出向)	
三宅 基子	京都先端科学大学 健康医療学部 教授	副委員長
森本 美行	fangate 株式会社 代表取締役	

(五十音順)

2 かめおかまるごとスタジアム構想 策定委員会 会議経過

	日 時	テーマ等
第1回	令和2年11月6日(金)	今後のアウトドアスポーツの展望 等
第2回	令和3年3月9日(火)	構想の前提条件の整理と課題 等
第3回	令和3年10月1日(金)	構想策定の今後の方針と展望
第4回	令和3年11月19日(金)	構想素案の内容確認について
第5回	令和3年12月17日(金)	構想素案の内容確認について



発 行 令和4年3月

亀岡市生涯学習部生涯スポーツ課

〒621 - 8501 京都府亀岡市安町野々神8番地

電 話：0771-22-3131（代表）

U R L： <https://www.city.kameoka.kyoto.jp/>